

ガバナー月信

Vol.12(最終号) Jun



未来を見据えて変化しよう
—多様性を力に—



6月 親睦活動月間





ガバナーご挨拶

2024-2025年度
第2770地区 ガバナー
岡村 瞳美 (川口)



残すところ1ヶ月となりました。5月末から6月にかけて「未来の扉」の動画配信用に3つの座談会を行いました。

一つは「これからのRYLAを考える」です。当地区は36年間青少年育成リーダーシップスキルを磨くために、RYLAの活動を行ってまいりました。

ここ数年RYLAの事業に募集の仕方、各クラブへのRYLA活動の認知の方法、予算の組立てなど、改めて考える時期になったと思います。座談会ではガバナーエレクト、ガバナーノミニー、そして青少年部門委員長、RYLA委員長に参加していただき、今後のRYLAのあるべき姿を話し合いました。

今年度はRYLA委員長が今まで当地区が行ってきたRYLA事業を細かく調べ、内容、期間、参加人数、予算を発表してもらいました。初めて分かったことは、36年もこの事業を行ってきたのに、きちんとした記録が残っていないということです。特に事業の内容や趣旨、成果についての記録が少ないことも分かりました。

今後の青少年のリーダー育成にあたって、当地区らしい事業内容を3年間にわたって考え直していくということと、きちんとした記録を残して受け継いでいく必要性を改めて認識しました。

次に、今年度は初めて3人の女性部門委員長が誕生しています。女性部門委員長、女性委員長にお声がけし、それぞれやりにくかったこと、また、現在の地区の状況について届託のないご意見を伺いました。

次の座談会では女性会長経験者および女性会長予定者に集まっています。抱負や女性会長ならではの苦労を話し合いました。

その中で、どの会長も夜の懇親会や二次会などに子育てや家事があり参加しづらいことを上げておられました。それによってクラブ内の人脈が作りづらいこと、クラブ内の組織づくりに苦労したことなどを述べていたことが印象的です。とりわけハラスメントなどを避けるために様々な工夫をされていることは、大変参考になりました。

ガバナーを受けてからは「女性だから」とか、「初めての女性ガバナー」という意識を持たず役割に取り組んできました。ガバナーアドバイスのひと月を迎えるにあたり、当地区は昨年スタート時には9.4%の女性会員でした。日本の平均が7.4%です。今年度はローターアクトクラブが3つ新設され、ローターアクターの増強が進み、180名のローターアクターが増えました。その女性比率は75%です。若い世代の男女比は既存のクラブとはかけ離れた数字を示しています。ローターアクターの女性が増えたことによって、当地区全体の女性比率も16.5%となりました。

とはいえ、国際ロータリーの世界平均は26%です。当地区もまだそれに及びません。この2回の座談会を終えて感じたことは、当地区の女性会員の意識の高さと、レベルの高さと行動力です。そして座談会参加のどなたがガバナーになっても、素晴らしいリーダーシップを發揮されるに違いないと確信でき、嬉しく思いました。

1年間地区役員の皆様、各クラブの会長をはじめとした会員の皆様、頼りない私を指導してくださいました。パストガバナーのみなさま、つらい思いをしながらも最後まで支えていただいた地区事務所の皆様、この一年間の活動にご理解ご協力いただいたすべての皆様に心からの感謝と御礼を述べさせていただきたいと思います。

本当にありがとうございました。



地区幹事　=一年を振り返って=



2024-2025年度

地区幹事

網谷 徹己

(川口)



2024年1月に米国フロリダ州オーランドでの国際協議会に参加したガバナーエレクトが、ステファニー A.アーチックRI会長エレクトと「THE MAGIC OF ROTARY」テーマ旗の前にこやかに握手した写真を眺めながら、この原稿を書いています。

RIが目指すポリオ撲滅・会員増強・DEI+Bの推進・平和構築の推進を受けて、P.P.S・P.H.Sの設立やロータークト特別推進委員会を設置し組織を改め、役員も多様な方々を登用し岡村ガバナー年度がスタートしたのがつい先日のことであるかのように思い出されます。

そして、ロータリー創設者ポール・ハリスの言葉「世界は絶えず変化しています。私たちは世界とともに変化する心構えがなければなりません。ロータリーの物語は何度も何度も書き替えられなければならないでしょう。」を具現化するべく、ガバナー自らがチャレンジして、会員の個性に価値を置くDEI+Bを積極果敢に進めていく決断をされました。

三大セミナーや諮問委員会・ガバナー補佐会議・部門委員長会議・スタッフ会議等を経て、ガバナーの運営方針「未来を見据えて変化しよう－多様性を力に－」はさらに醸成され、公式訪問で68クラブに向き合い丁寧に伝達浸透してきました。

メインプログラムの地区大会では、混沌とした現在の国際情勢におけるロータリーの役割を考えようと地区大会実行委員会と共に企画し、会員が時代の変化に強いリーダーシップを発揮し平和構築を目指そうと決意も新たにできました。

がしかし、残念ながら昨年度のガバナーが急遽交代したことによる波紋が、地区大会の進行までをも妨害させたのは極めて遺憾な行為でありました。

また、地区事務所の運営体制を抜本的に見直すべく、事務所の改装から職員の勤務体制の見える化、果ては地区法人化までのハードからソフトの一

気通貫の改善を、事務所運営委員会・パストガバナー・クラブ会長のご協力をいたいで成し遂げ、未来のロータリーの在り方を示せたのはひとえにガバナーの熱意の賜物がありました。

組織として何をやったか?という数値目標の達成は勿論ですが、誰とやってきたか?も重要なモチベーションになります。その意味で岡村ガバナーというDEIを自ら体現する覚悟を持ったリーダーといつもどんな時も一緒に歩んでこられたのは、Executive Secretary(地区幹事)の役得と言っても過言ではありません。

小倉事務局長・砂沢筆頭地区副幹事・杉山会計をはじめとする副幹事団、事務所職員の橋本さん、春木さん、高萩さん、物心両面のサポートは輩出クラブである川口ロータリークラブ、これらの皆様方の一言では言い尽くせない程の温かく継続的なご支援によりまして岡村ガバナーをチームで最後まで支えられたのも、また地区幹事冥利に尽きると言えるでしょう。

「岡村ガバナーとともに」2024-2025の歩を進めてきた2770地区が、今後明確な組織管理により効率化が図られ、66クラブに還元できること。そして、すべてのクラブが今後も様々な属性のありのままの個人を受け入れ、会員の持つ能力を尊重し引き出すDEI+Bを推進していかれること、それぞれのエリアにおいての奉仕活動が、地域社会にさらなる変化をもたらすことを信じてやみません。

ありがとうございました!!





ガバナー補佐 =一年を振り返って=



2024-2025年度
第1グループ ガバナー補佐
梶間 順子
(浦和中)



第1グループ各クラブの会長幹事の皆様のご理解とご協力をいただき、ガバナー補佐として任期を全うすることが出来ました。
ありがとうございました。

「やってもやらなくても、どちらでも良いわよ!」これが岡村ガバナーのマジックだったのでしょうか?! IMも5クラブ合同事業もやらせていただきました(笑)開催して本当に良かったと思っています。

11月12日、埼玉会館において第1グループ5クラブ合同事業「浦和から創めるREスタート!ケアリーバーの居、食、住を支えるために」と題したシンポジウムを開催しました。1部では自立支援の実態、児童養護施設出身者が語る自らの体験や支援を受けている若者の声を聞かせていただき、2部では、私たちに何が出来るのかをテーマにパネルディスカッションを行いました。

シンポジウムだけでなく、その後2回の公開例会を開催しました。

「今日ほどロータリアンで良かったと思ったことはない!!」

5クラブの会長の感想を聞いて胸が熱くなりました。心を合わせてひとつの事業に取り組むことの大切さを実感した瞬間でもありました。この事業は今年度だけではなく次年度にも繋げて行きたいと考えています。

そして2月14日「ロータリーに情熱を!」をテーマにIMを開催いたしました。

どんな時にも前向きに生きる俳優、石田純一さんの講演、情熱的なダンスと心弾むラテン音楽の演奏、新会員の皆さんとの熱いクラブ自慢!で盛り上りました。

たくさんの方に最後までお残りいただき、最高の「手に手につないで」で締めくくることが出来ました。

その他さいたま市の数々の会合やイベントへの参加など1年間、たくさんの素晴らしい貴重な経験をさせていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。石田さんのお話にあったように「希望は、人を若くする」を胸に、いつまでも健康でこれからもロータリーに情熱を持って活動していきたいと思います。そして、誰もが希望を持てるそんな2770地区であって欲しいと心から願っています。



2024-2025年度
第2グループ ガバナー補佐
葭谷 広行
(さいたまシティ)



2024-2025年度、国際ロータリー第2770地区 第二グループのガバナー補佐を務めさせていただきました。この1年間、貴重な経験と多くの学びを得られたことに、心から感謝申し上げます。ご指導ご支援いただいた岡村ガバナーをはじめ、地区幹事、各部門委員長、そして第二グループ各クラブの会長・幹事・会員の皆様に、あらためて御礼申し上げます。

私たち第二グループには、それぞれに長い歴史と独自の文化を持ったクラブがそろっており、それぞれが地域に根ざした奉仕活動を展開されています。よって、私のガバナー補佐としての仕事は、ガバナーの方針や地区の情報を正確かつ丁寧に伝えると同時に、各クラブの声を地区に届ける「つなぎ役」であると理解し、これを常に意識して行動して参りました。

各クラブへの公式訪問や例会への参加を通じて、会員の皆様がロータリーの理念を真摯に体现し、地

域に貢献されている姿に、たびたび感銘を受けました。特に、若い世代との交流事業や災害支援活動など、時代のニーズに応えた取り組みを拝見し、各クラブ地域における存在感の大きさと、地域への貢献度の高さに、第二グループの一員であることに誇りを感じました。

一方、各クラブの運営においては会員増強や例会出席率といった共通課題も見受けられました。これに対しては、クラブ間の交流促進や会長幹事会を通じた情報共有に微力ながら取り組ませていただきました。また、第一グループ・第二グループ全体として、地域の一体感が高まるようインテーシティーミーティングを開催しました。実行委員会のみなさまと力を合わせて企画・運営し、たくさんの会員にご参加いただけことに大変感動しましたし、大切な思い出になりました。

この1年間を振り返ると、自身のロータリアンとしての在り方を改めて考える時間になりました。ガバナー補佐という役割は、責任も大きい反面、得られる学びや出会いも計り知れませんでした。多くの方々のご協力のおかげで、無事に任期を全うできることを心から嬉しく思います。

今後はこの経験をもとに、一員として引き続きクラブと地域に貢献してまいります。皆様のご支援とご厚情に深く感謝申し上げ、ガバナー補佐としての一年の振り返りとさせていただきます。



ガバナー補佐 =一年を振り返って=



2024-2025年度
第3グループ ガバナー補佐
岡本 圭司
(大宮シティ)



第3グループのガバナー補佐を拝命して、漠然とした不安から始まった約1年半の期間は、私にとって新たな出会いと貴重な経験を得ることができた思い出深い時間となりました。

7月の年度初めには、大宮公園のボート池復活のイベントに併せて募金活動を行いました。賑やかなイベントの中での奉仕事業でしたが、炎天下の活動は熱中症のリスクをあらためて考えさせられる事業でもありました。

10月には大宮区民ふれあいフェアにおいて募金活動を行いました。7月と10月の募金活動にはさいたま大空ロータリークラブから大量のジャガイモと

サツマイモを提供いただき、寄付者へのプレゼントとして大変好評でした。

2月にはパレスホテル大宮でIMを開催いたしました。講師には作家の守屋淳氏をお招きして「今、渋沢栄一に学ぶ」というテーマで講演をしていただきました。また、開会に先立ち、昨年逝去された中川高志パストガバナーを偲ぶ映像をご覧いただきました。

中川パストガバナーは、大宮ロータリークラブの初例会のあと各クラブの会長・幹事を激励する場を設けていただきました。体調がすぐれない中、熱くお話をされる姿が強く記憶に残っています。

5月には第3・第4グループ合同のチャリティゴルフコンペを開催して、IM事業の仕上げといたしました。

岡村睦美ガバナーには、公式訪問において各クラブの現状を鑑みた適切なアドバイスをいただきありがとうございました。

最後になりましたが、この1年間、強く結束してグループの事業に積極的に取り組んでいただいた各クラブの会長・幹事の皆様、そして私を支えていただいた名取俊行補佐幹事に感謝いたします。



2024-2025年度
第4グループ ガバナー補佐
原田 晃博
(岩槻)



ロータリークラブに入会して15年が過ぎ、本年度はガバナー補佐という大役を拝命しました。ガバナー補佐としての役割の一つである「各クラブ、会長に常に寄り添う気持ちを失わず、いつでも相談に乗れるような人間関係を構築する」に関しては、クラブ訪問や会長・幹事会での会長報告等での各クラブの問題を確認し相談、アドバイスを行いました。第4Gの各クラブを訪問する中、当たり前ではありますが「各クラブが持つ歴史に裏打ちされた雰囲気、ポリシー」を感じ、緊張感のある例会に参加させて戴きました。例会における各クラブのメンバー皆様の動きが素晴らしいと感じました。

岡村睦美ガバナー年度、私自身が初心に戻り、「ロータリークラブ」の持つ広く、深い世界を勉強させて戴く多くの機会を得ました。様々な切り口がある中、奉仕の理想(理念)に関しては「超我の奉仕」、「最も良く奉仕する者、最も多く報いられる者」、「他人への思いやり」、「人にしてもらいたいと思うことは何で

も、あなた方も人にしなさい」。これらの言葉が一体となった概念であることを改めて学びました。また、「寛容」についてポール・ハリスは次のように述べております。「寛容の精神は、ロータリーを結びつけるものです。もしこの寛容の精神がなければ、各ロータリークラブのあふれんばかりの原子力エネルギーはこなごなになってしまうでしょう」。つまり、ロータリーはこのような寛容の精神の土台の上で、奉仕活動と親睦を自分自身の職業活動にいかに調和させていくかを追求して行く事であります。「寛容」という言葉の持つ重要さを学びました。また、「4つのテスト、DEI+Bの推進、ビジョン声明、行動計画」に関しても各クラブに実践、実行して戴きました。

この一年間ご支援戴いた岡村睦美ガバナー、網谷地区幹事、適切なアドバイスを戴いた同期ガバナー補佐の皆様、第4G会長・幹事の皆様、田畠IM実行委員長をはじめとするIM実行委員会の皆様、またIMゴルフでは第3Gの岡本圭司ガバナー補佐、佐々木IMゴルフ実行委員長、IMゴルフ実行委員会の皆様、各クラブの事務局様、地区スタッフの皆様、自クラブである小林篤会長、内藤明幹事、岩槻RCメンバーの皆様、多くの皆様のお力添を戴き心より御礼申し上げます。そして第4Gのグループ運営に大変、ご尽力戴いた津多一幸グループ幹事には深く感謝申し上げます。第4Gのクラブ間の運営がスムーズに行えたのも津多一幸グループ幹事のお陰です。

最後に「楽しくなければロータリーじゃない!」 これから第4Gの更なる発展に乾杯!



ガバナー補佐 =一年を振り返って=



2024-2025年度
第5グループ ガバナー補佐
前島 昌文
(桶川)



激動の2024-2025年度、第5グループガバナー補佐として一年間お世話になりました。

正直を申し上げ、まさかこんなに忙しい一年になるとは、想像もつきませんでした。ガバナー補佐の仕事は、地区からの依頼事項を会長の皆様にお伝えし、クラブの要望を地区またはガバナーにお伝えする。それは伝達係の様な役割なのであろうと思っておりましたが、年度始まる前の会議を重ねる毎に、みるみると埋まって行くスケジュール帖の空欄。「最低5回は担当クラブに回ってくださいねえ♪」のガバナーのご要望にお応えするには、9クラブ×5=45回!およよよ!ガバナーの公式訪問に結構近い数ではないかい?とは思いつつも、その5回と言う回数は必要最低限の訪問回数だと納得するには、さほど時間は掛りませんでした。「何しろ一年間、ガバナー補佐は会長に寄り添ってください!」と言う岡村ガバナーのご要望は、ガバナー補佐としての最も大切な仕事である事は容易に理解が出来ますが、さて?どの様に寄り添ったら良いのやら?と、疑問を抱きつつも、年度当初のご挨拶に各クラブにお邪魔させて頂くと、どのクラブでも熱烈大歓迎でお迎えを頂きました。そして会長幹事会でも皆様と膝を交えてお話をさせて頂く中で、寄り添うとは、8つのクラブを全て自クラブだと

思って接して行けばよい事なのだと気づかされました。クラブ間の垣根は取り払い、私も会長幹事の皆様も、泣いても笑っても一年の任期を、楽しくやって行こうではありませんか!との思いから、クラブ単独で開催されている賀詞交歓会を、グループ全体にお声掛けさせて頂き開催をしたり、グループ全体を対象としたボウリング大会を初めて開催をしたり、例年近場のゴルフ場で開催するインターナショナル記念ゴルフ大会を、遠方の有名なゴルフ場での開催をしたりと、グループ内9クラブの交流がより一層盛んになる試みもさせて頂いた一年でした。

何はともあれ一年間無事に役職を終えられた事は、ひとえにグループ内会長幹事の皆様のご協力があったからこそその事であるのは当然と致しまして、第5グループ9つのクラブ会員の皆様のご理解とご協力の賜物であります。また懇話会の大先輩の皆様には、眉を顰める場面も多々あったかと思いますが、温かい目を持って見守って頂いた事にも、深く感謝を申し上げさせて頂きます。さて、無事とは申しましたが、果たして本当に無事だったのか?会長幹事の皆様には、安心して一年間クラブを引っ張って行けて頂けたのか?岡村ガバナーには、第5グループは前島に任せておけば大丈夫!と思って頂けていたのか?多く疑問も残る所ではございますが、今後はこの一年間で勉強させて頂いた、貴重経験を生かして、以後の自クラブそして第5グループの発展、ひいては2770地区の発展に少しでも貢献出来ればと考えております。

結びに改めまして関係各位のご指導、ご理解とご協力に深く感謝申し上げますと共に、各クラブの繁栄と、会員各位のご活躍を心よりお祈りさせて頂きます。一年間誠にありがとうございました。

そして最後の最後に、桶川クラブのみんな!一年間共に苦労をありがとう!



2024-2025年度
第6グループ ガバナー補佐
渋谷 忠明
(杉戸)



1年間を振り返り、まずグループ内の会長幹事をはじめ全ての会員に感謝申し上げます。また、同期のガバナー補佐の皆さまにも大変お世話になりました。ありがとうございます。しかしながら本来の努めである「岡村ガバナーをアシストする事」「各クラブに寄り添う事」が上手く出来なかつたこと反省しております。

前年度の8月の顔合わせから始まり、PELS、CRLS、各クラブに挨拶並びに岡村ガバナーの方針を説明するためのMU、公式訪問リハーサル、公式訪問、グループチャリティーゴルフコンペ、地区大会、IM、他グループIM参加、周年式典、ガバナー補佐会議、合計8回の会長幹事会…等々、目まぐるしく過ぎた1年でした。

その中でも私として感慨深いのは第6グループIMです。2月8日(土)快晴ながら寒風が吹く中、前年4月1日にオープンしたコミュニティー施設『ココティ杉戸』にて、第6グループIMが行われました。今回のIMは4部構成で第1部ではロータリークラブの公共イメージ向上目的として一般の

ゲストを対象とした映画『オレンジ・ランプ』上映会を開催いたしました。若年性認知症になった主人公の映画で観覧者は誰一人席を立つことがなく、感動したと言う感想を頂きました。第2部はこの映画のモデルとなった丹野智文氏とのトークセッションです。39歳で若年性認知症と診断されました。が、当時自動車販売店のトップセールスマンだった持ち前の明るさと話好きな性格を慕われ、現在も同じ職場で事務職として働いています。その傍ら2015年より認知症当事者のための“もの忘れ総合相談窓口『おれんじドア』を開設し、年間150日を超える講演活動をこなしながら、認知症とともに生きるための大切なことについて普及活動を行っています。当日、会場内のゲストの皆様からも質問をいただき、大変有意義な時間となりました。

私はロータリークラブ=思いやり、思いやり=他人を理解する事だと思っております。つまり多様性を認め寄り添い優しく包むこと。今回上映した「オレンジ・ランプ」は、RIが推奨するDEIの考えともリンクし、ロータリアンには是非見て頂きたい作品です。第3部は丹野氏も同席し、ご来賓として杉戸町長、春日部市長、杉戸町教育委員長をお迎えし、それぞれの地域で活動する5クラブの会長報告が行われました。第4部の懇親会では、式典会場隣の多目的室にて行われ、米山奨学生や交換留学生も含めた60名あまりにて開催しました。今回のIMは会場のキャパシティーの関係もあり、グループ内で完結する事といたしました。残念ながら岡村ガバナーを招待出来なかった事、後悔しております。出来れば同じ時間を共有したかった…。

最後に1年間、大変貴重な経験をさせていただきました。全ての皆様に感謝いたします、ありがとうございました。



ガバナー補佐 =一年を振り返って=



2024-2025年度
第7グループ ガバナー補佐
天野 正幸
(久喜)



久喜RCの天野正幸でございます。この一年間、第7グループのガバナー補佐として務めさせていただき、皆様から温かいご指導、ご鞭撻を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

第7グループの8名の会長・幹事の皆様、そしてクラブの仲間、地区役員の皆様のお力添えのおかげで、充実したロータリーライフを過ごすことができました。特に、ガバナー補佐幹事の夢川善裕会員には、多大なご尽力をいただき、深く感謝しております。

この一年間は、私にとってかけがえのない経験となりました。ロータリアンの皆様と親しく交流し、共に活動する中で、多くの学びを得ました。他グループのIMや様々な行事に参加することで、新たな出会いがあり、情報交換を通じて認識を深めることができました。こうした機会はロータリアンならではの特権であり、その価値を改めて実感した次第です。

最後に、この一年間を共に歩んだ同期のガバナー補佐の皆様に、心より感謝申し上げます。今後もこの経験を糧に、ロータリー活動をより豊かにし、さらに多くの方々とともに成長していきたいと考えております。皆様のご指導、ご協力に深く感謝するとともに、今後のロータリー活動がますます発展することを願っております。



2024-2025年度
第8グループ ガバナー補佐
須賀 定吉
(越谷)



岡村年度におきまして、ガバナー補佐を拝命して早や1年が過ぎました。本当に早く過ぎた1年であり、あらためてロータリーの事などについても学ばせていただいた年度であったと思います。

岡村ガバナーは地区としての目標を設定し達成するため、心をひとつに行動していくことの重用性について話されておりました。

それがRI会長のテーマである

「MAGIC OF ROTARY」ロータリーの奇跡
地区の運営方針として

「未来を見据えて変化しよう」「多様性を力に」
ということが、この目標設定になると考えます。

第8グループとしては

- ・7月30日 越谷北ロータリークラブの主催による
ジュニア甲子園大会(会場:越谷市民球場)
- ・8月22日 越谷南ロータリークラブの主催による
少年サッカー大会予選(会場:加須市)

・11月3日 越谷東ロータリークラブの主催による
越谷市高校野球大会(会場:越谷市民球場)
・10月20日 市内5クラブがそれぞれの企画で参加した
ポリオ撲滅を目的とする
「越谷市民まつり」(会場:越谷市役所周辺)
等々の活動が開催されました。

また、2月1日に開催しましたIMにおきましては、国際ロータリー第2840地区 田中久夫パストガバナーに、仲間と出会いが彩る人生「ロータリークラブの神髄」というテーマでご講演をいただき、あらためてロータリーがメンバーの人間形成における重要性において、与えてくれる役割の大きさをご指導いただいた次第であります。

そして、3月10日には「IM記念ポリオ撲滅チャリティーゴルフ大会」が常総市のフレンドシップカントリークラブにて開催されました。

多くの方々に参加いただき、友愛と奉仕の精神を改めて共有する場となり、大変有意義なひと時となりました。

おかげさまで大きな寄付を集めることができ、ポリオ撲滅の取り組みに向けてまた一つ大きな前進となりました。

これもひとえに、皆様のお力添えいただいたおかげでございます。末筆になりますが1年間を通じて皆様のご協力をいただきましたことに、あらためて感謝を申し上げまして御礼を含めての報告とさせていただきます。



ガバナー補佐 =一年を振り返って=



2024-2025年度
第9グループ ガバナー補佐
飯山 英彦
(草加松原)



2024-2025年度、国際ロータリー第2770地区ガバナー補佐第9グループを務めさせていただいた飯山英彦です。この一年間を振り返りますと、地域の絆を深め、クラブ間の連携を強化することに尽力して参りました。私たち第9グループは、青少年育成支援に特に力を注ぎ、5つのクラブが協力して交換留学生支援の合同例会を開催しました。この取り組みを通じて、若い世代が国際理解を深め、世界を舞台に活躍するきっかけを提供できることを誇りに思います。特に印象深かったのは、各クラブがそれぞれの特色を活かしたプログラムを展開し、留学生たちが文化交流や地域活動を通じて成長する姿でした。彼らが将来、世界のリーダーとなり、平和構築や地域活性化に貢献してくれることを期待しています。

一方で、この一年は課題も多くありました。特に深刻だったのは、会員の高齢化や会員数の減少という現実

でした。これに伴い、クラブ運営の負担が増加し、クラブの統合や再編を視野に入れた議論も避けられない状況となりました。しかし、これらの課題をただ悲観的に捉えるのではなく、各クラブが真摯に向き合い、共通の課題として受け止め、問題解決に向けて連携し取り組んだことは大変意義深かったです。

また、ガバナー補佐として地区内のクラブ訪問を通じ、各クラブがそれぞれの地域で熱意をもって奉仕活動を続いている姿に触れました。地域社会と深く結びつき、積極的に地域貢献活動を展開する姿勢は、私自身にとっても大きな励みとなりました。さらに、クラブ間での情報共有を積極的に推進することで、相互理解が深まり、新たな共同プロジェクトや地域貢献活動が生まれるなど、大きな成果を上げることができました。私自身、この一年間を通して、ロータリークラブの奉仕の精神と情熱を再確認し、自らの役割や使命を改めて考える貴重な機会となりました。奉仕活動を通じて築かれる人と人とのつながりや、そのつながりが生む新たな可能性を実感しました。次年度以降も、この経験を基にさらなる連携強化と地域貢献に努めてまいります。

最後に、この一年間の活動を支えてくださった各クラブの会員の皆様をはじめ、地域の方々、関係各位の皆様に心より感謝申し上げます。皆様の温かいご支援とご協力があってこそ、私たちは地域社会に貢献し続けることができます。引き続き、皆様とともにより良い未来を築いていけるよう精進してまいります。



2024-2025年度
第10グループ ガバナー補佐
濱田 一夫
(三郷中央)



私事でありますと4年前に食道癌の手術を行い2年が過ぎた頃、我がクラブでガバナー補佐を出すことに成り、会員の後推しも有り、体調も良くなつて来たのと大病をへて、何か良い事しなければとの思いからガバナー補佐を受ける事にしました、ところがその後再手術になり体調も良くならないので、クラブからG補佐は無理だと、伝えてもらったところ、ガバナーエレクトから始まるのは7月だから頑張れとの事でやることにしました。第一回G補佐会議には出席できず二回目からの出席に成りました。先ずは、グループ会長幹事との意思疎通を図るため、篠田和男補佐幹事に協力してもらい会食をしながら岡村睦美ガバナーの今年度の目標を報告、特に会員増強、ポリオ・プラス・ソサイティ、ポール・ハリス・ソサイティの会員の参加それに向けて各クラブの更なる努力のお願いしました。そうこうしているうちに、G公式訪問が始まり、ガバナーに、同行しながら5クラブに訪問しました、各クラブそれぞれに特徴があり勉強になりました。それから岡村ガバナーから今期からインターシティミーティング、合同事業はやってもやらなくても、との事でしたので当初は体調も体調

でしたので、その方が良いなと思っていましたが、G補佐会議、グループ表敬訪問、会長幹事会を重ねてゆく中で、ひとつ位10グループ全体での親睦を図る意味でも催しをした方が良いと思い、会長幹事会で話した所、全員、賛成でインターシティミーティングをやろうという事に成りました。このグループは吉川、三郷、三郷中央、松伏、吉川中央の5クラブで会員数100人に満たない小さなクラブで大規模な事は出来ません。そこで小予算でR財団に寄付が出来て、会員が楽しく親睦が出来、地元自治体にアピールが出来る様な催しを考えました。副題を「ポリオ根絶親睦チャリティパーティ」とし、実行する事になりました。実行委員長を三郷中央RCの谷津茂男会長にお願いし実行委員は他の会長幹事、補佐幹事11名、会場も普段の例会をしている三郷市商工会館で行い飲食はケータリング会社にお願いして、費用がかからないようにしました。

当日はお客様としてガバナー、市長、町長、同期ガバナー補佐の参加を賜り、各クラブ大勢の会員出席で100名からの催しになりました。第1部趣旨説明、ガバナー、地元市長、町長、ガバナーエレクトご祝辞を頂きポリオ募金目録「300,000円」をG補佐からガバナー贈呈しました。後、パストG補佐に粗品を贈呈しました。第2部アマチュアバンド3金バンド「昭和ポップス」を聴きながらパーティが行われました、最後に「手に手つないで」全員で行い終了しました。それから会員増強ですが、残念なことにグループ全体で6人が入会して3人が退会、他に吉川RCの今季まで解散になりました。次年度は4クラブでのスタートになります。尚、寄付に関してはPPS8人PHS3人でした。いたらないガバナー補佐では有りましたが、皆様の力をいただき何とか1年を過ごすことが出来ました、大変有難うございます。



ガバナー補佐 =一年を振り返って=



2024-2025年度
第11グループ ガバナー補佐
西山 育昌
(川口モーニング)



国際ロータリー第2770地区第11グループのガバナー補佐を務めさせていただきました、川口モーニングRCの西山育昌でございます。この1年間、11グループの会長・幹事、そして11グループのロータリー会員の皆様にはご支援・ご協力を頂き心より感謝申し上げます。

1年間を振り返ってですが、今年度は岡村ガバナーの方針の一つに会員増強が最重要課題に挙げられましたので、会長・幹事会そしてクラブ訪問の際には必ずその話をさせて頂きました。どこまで皆さんにお伝え出来たか分かりませんが、各クラブが工夫をして会員増強を考えて頂いてクラブ活性化をしてくれたと思います。

そして今年度のIMは、室内ではなく屋外での開催

にチャレンジしました。

令和7年3月30日(日)、川口駅前キュポラ広場にて開催しました。

ご来賓に国際ロータリー第2770地区岡村睦美ガバナーをはじめ他グループのガバナー補佐にも出席頂き誠にありがとうございました。

今年度は、ロータリーを幅広く市民に知って頂きたく川口駅前広場で第一部式典そして第二部にキッズダンスコンテスト＆各クラブの紹介を行いました。

そして広場では、各クラブテントでの奉仕活動展示物品販売を各クラブが工夫を凝らして会員皆で協力して楽しくできた事がとても良かったと思いました。

第二部のキッズダンスコンテストでは、18チーム出場して頂き、子供約80名の参加になりました。子供達の日ごろの練習成果が感じられてとても素晴らしいコンテストになりました。

又、川口東ロータリークラブが日ごろから支援しているミニバスの子供達も約150名参加して頂き、大変賑やかにIMを盛り上げて頂き感謝いたします。

1年間、11グループの会員、皆様大変お世話になりました。



2024-2025年度
第12グループ ガバナー補佐
熊木 雄太郎
(戸田)



2024-25年度第12グループガバナー補佐を務めさせていただきました戸田RC所属の熊木雄太郎です。ガバナー補佐の職を預かり1年間どのように進めて行こうか不安のスタートの中、ガバナー補佐の役割とはなにかを考えクラブ会長に寄り添いつつも相談にのれるような人間関係の構築を進めて参りました。今まで見てきたとはいえ自分でやるのは初めてでしたがそれぞれのクラブ訪問や多数の方の出会いに感謝申し上げます。

また一般市民も参加できる12グループ合同事業はピンクリボンウォークです。ピンクリボン運動は乳がんの早期発見、治療、根治の大切さを伝える運動で、1980年代アメリカで娘を乳がんで亡くした母親が二度とこのような悲劇が繰り返さないようにとの想いで始まったそうです。現在では10月にロックフェラーセンターやエッフェル塔、日本でも東京タワー、大阪城、埼玉でもさいたまアリーナ、大宮ソニックがピンク色にライトアップして啓発を強化しています。

戸田では19年前に始まり、戸田RC、戸田西RC、戸田イブニングの3クラブが初回より参加、10年後に戸田からさいたま新都心に移り再び戸田の地へ12グループが主催、『ピンクリボンウォークin戸田 蕨 川口』となり昨年で3回目、当地区岡村睦美ガバナーにもお越しいただき400名の閉会セレモニーでご挨拶を頂きました。乳がんは早期発見で90%治る病気と言われており引き続きこの12グループから啓発してまいります。

そしてIM、テーマは『ロータリーを楽しもう!』令和7年1月25日午後3時鐘

第12グループIMにご参加された12グループのみなさまと同期のガバナー補佐のみなさま、実行委員会の各クラブの幹事のみなさま、IM開催にあたりご協力ありがとうございました。

コロナより下火になりましたロータリー活動がどうにか立ち直ってもらいたい一心でテーマを『ロータリーを楽しもう!』と題して落語家の三遊亭好太郎師匠をお招きし落語の裏話を話していただきました。奉仕の前に親睦の歯車をという言葉があるように当日は原点に返りロータリアン同士の親睦と楽しい例会を目指しました。

さいごに各クラブの皆さん公式訪問からはじまり合同事業、IMまで今年度は大変お世話になりました。同期のガバナー補佐のみなさまとのご縁も忘れません。そして何より第2770地区岡村睦美ガバナーのきめ細やかなアドバイスとバイタリティ溢れる行動力で乗り切れたことに感謝申し上げます。



部門委員長・委員会委員長 =一年を振り返って=



2024-2025 年度
ローターアクト特別推進委員会
委員長 **内山 泰成**
(大宮西)



ローターアクトクラブは、ロータリークラブと同様に、正式に国際ロータリーの加盟クラブとなりました。これにより、ローターアクトクラブには大きな可能性が期待される一方で、組織としての自立も求められるようになり、以下のような規約の変更が行われ、現在もその改革は進行中です。

- ・年齢上限の撤廃
- ・地区内ロータリー行事へのロータリー会員としての参加ができる
- ・スポンサークラブの有無にかかわらず、ローターアクトクラブの新設ができる
- ・地区補助金・グローバル補助金の申請が可能
- ・RIへの人頭分担金の支払い義務化(大学基盤:5ドル、社会人基盤:8ドル)

当初は、ローターアクトメンバーも我々ロータリアンもこの変化に戸惑い、まずは意見交換会からスタートしました。岡村ガバナーにもご参加いただき、ご指導を賜る中で、お互いが意識を変革し、「協働」の推進に向けて歩みを進めることとなりました。そして、地区運営方針「未来を見据えて変化しよう」というガバナー方針のもと、ローターアクト委員会は青少年部門から独立し、ローターアクトメンバー5名、ロータリアン5名による、ガバナー直下の特別推進委員会として発足いたしました。

特に、ローターアクトが持つ大きな可能性に着目し、地区補助金、将来的にはグローバル補助金を活用した大規模事業の経験をメンバーに提供したいという想いから、当委員会では以下の方針を掲げ活動してまいりました。

ローターアクト特別推進委員会の方針

1. ローターアクトクラブの基盤強化 定款・細則の見直しと改定、年度計画書の作成支援
2. 合同奉仕事業の実施 地区補助金特別枠を活用した、地区内ローターアクトクラブによる合同奉仕事業の実施
3. 新クラブの設立推進 大学基盤、地域社会基盤それぞれの新ローターアクトクラブの設立
4. 研修会の開催 指導者講習会、会長・幹事会などにおけるロータリー基礎知識の研修会実施
5. 他部門との連携強化 インターアクトとの合同募金活動、広報部門による動画での活動紹介など

特に11月に実施した2770地区ローターアクト合同奉仕事業「埼玉子ども食堂プロジェクト」では、地区補助金を活用し、市・市教育委員会の後援、子ども食堂ネットワークの協力を得て、来場者数1,000名を超える盛大な事業となりました。主催者、参加者、協力者の皆様に笑顔があふれる、素晴らしい一日となりました。

このプロジェクトは、ローターアクトメンバーにとって奉仕事業の意義を体感し、自信を深めるとともに、今後のさらなる成長を期待できる大きな経験となりました。

また、クラブ増強においては、年初には9クラブ・会員数100名未満だったところから、次年度には13クラブ・会員数200名超となる見込みです。

今後に向けては、ローターアクトクラブのさらなる基盤強化と自立体制の確立を図るとともに、スポンサークラブとの良好な関係構築と協働の推進が求められます。また、ローターアクトクラブの地位向上を目指し、その持つ大きな可能性を内外に発信することで、会員拡大および新クラブ設立の促進に取り組む必要があります。

2024-25年度ローターアクト特別推進委員会は、ローターアクトメンバーと共に思いを共有し、行動を重ねてまいりました。今後も、ローターアクトクラブが活発な活動を通じて、「ローターアクトの目的」の達成に向けて着実に成長していくことを願っております。最後になりましたがローターアクトスポンサークラブの皆様、ローターアクト特別推進委員会に寄り添っていただき、ご協力を賜ったロータリアンの皆様に深く感謝申し上げます。

ありがとうございました。



2024-2025 年度
ローターアクト特別推進委員会
地区ローターアクト代表
小西 加純



今年度、青少年奉仕部門から独立した組織として、ローターアクト特別推進委員会が発足し、これまで以上に2770地区ロータリーの皆様の温かいご支援をいただきながら、精力的に活動を展開してまいりました。

本年度のローターアクトの最大の成果として特筆すべきは、やはり「埼玉子ども食堂プロジェクト～食べて・遊んで・学ぼう～」の成功です。本プロジェクトでは、推定1,000人を超える参加者が集い、地域の子どもたちに子ども食堂への親しみを深める機会を提

供するとともに、地域交流の場を創出しました。今回の取り組みは、2770地区ローターアクトにおいて初めて地区補助金を活用した大規模事業であり、地区全体が一丸となって企画から運営までを手掛けました。この経験を通じて、今後各クラブが独自に事業を展開するための貴重な実績を積み上げることができました。さらに、インタークラブのメンバーや地域の一般ボランティアの方々にも50名以上のご協力をいただき、ロータリーおよびローターアクトの認知度向上にも寄与することができました。この成果を糧に、今後さらなる会員の獲得へと繋げられることを期待しております。ローターアクトならではの若さ、創造力、行動力を最大限に生かし、より一層充実した奉仕活動に挑戦してまいります。

結びに、本年度を通じて、「埼玉子ども食堂プロジェクト」をはじめとする様々な活動に際し、ロータリーの皆様には寛容なご理解と惜しみないご支援を賜りました。ローターアクトの活動にご尽力くださった皆様、そして関わってくださったすべての方々に、心より感謝申し上げます。



部門委員長・委員会委員長 =一年を振り返って=



2024-2025年度
ロータリーの友地区代表委員
板橋 智之
(川口東)



今回の役職を岡村ガバナー(当時エレクト)から依頼を受けた時、“それって何ですか?”と聞き返した事を鮮明に覚えております。ロータリー歴が長いわりに、ロータリーの友(以下は「友」)に関しての認識がとても薄かった事に今は、とても反省をしております。

「友」の読書率向上と活用促進を呼びかける事がこの役職の重要な役割です。具体的には毎月発行される「友」を読んで感じた事をレポート作成して編集部にメールする事や、各セミナーや卓話を通じて「友」のPRをする事、PRの中で電子版の活用や各コーナーへの投稿依頼をする事でした。

2024年3月、国内34地区の代表委員が招集され、今次年度の合同による会議が実際のスタートでした。以

後翌年3月まで、オンラインを含めて4回、合同会議で情報交換が行われました。

その後は、ラーニングセミナー、任期スタート後は、依頼があった4クラブでの卓話、地区ローターアクト事業の参加等、当地区のトピックになる事業にはアンテナを張って日々を送っておりました。

卓話の中では、特に電子版の活用に時間を割いて説明しましたが、当然のごとくスマホ操作やネット環境に個人差ありとても苦戦をしました。(笑)

卓話で印象に残っているのは、俳壇、歌壇、柳壇に毎年の様に掲載されるくらいクラブ内で競っていてこれは驚きました。

また、地区大会の記事は必ず掲載されていて、その記事(写真と原稿)は代表委員が担当する事となっており、どの写真を使うのか、どの様な記事にするのか岡村ガバナーと相談して作成をさせて頂きました。

結びとなりますが、今回の役職を通じて多くのロータリアンの方々とのご縁が出来た事は私にとってとても嬉しい有難い事ですし、当地区における「友」の読書率の向上に向けた活動に微細でも関わらせて頂いた事に心から感謝申し上げ活動報告とさせて頂きます。



2024-2025年度
管理運営部門 委員長
瀬田 秀樹
(八潮)



管理運営部門は『クラブ活性化委員会』『RLI運営委員会』『規定審議会検討委員会』の三委員会で組織しており、16名の委員で構成されております。山口委員長・柳沼委員長・多田委員長を中心に各委員会でのリーダーシップを発揮し、委員会を盛り上げていただきました。管理運営部門はそれぞれの委員会において果たす役割は違いますが、いつも合同で委員会を開催し、皆が一緒にやってラーニングセミナーや部門セミナーの準備等を協力し、常に行動を共にしてきました。部門メンバー全員が率先して役割に徹し、協力し合い、DEI+Bを見事に実践した部門だと自負しております。部門メンバー一人ひとりの行動力と仲間同士の信頼関係を築けたことは私にとってとても大きな財産となりました。

一年以上もの間、一緒に考え、行動し、協力してくれた仲間を、私は一生の宝だと思い、ロータリーでの出会いに感謝しております。

改めて心から委員長・委員の皆様に感謝申し上げ

ます。

それぞれ委員会での活動は各委員長からの報告があると思いますが、特に印象的なものは、部門セミナーにおいて行動計画の模擬策定でした、クラブ活性化委員会が主体の内容ではありましたが、RLI運営委員会も規定審議会検討委員会も自分たちのことのよう役割に徹していただき、すべての委員が積極的に地区内参加クラブに対して熱心に対応し、(仮)行動計画策定のアドバイスを行っておりました。

策定に不安を抱いていたクラブからも『やってみたら、意外と簡単だ』という声を聞いた時には正直ホッと、したことを思い出します。

2025年5月末現在、68クラブ中、49クラブが行動計画を策定しております。

残りの一ヶ月、未策定クラブに対して何かお手伝いが出来ればと部門メンバー全員で取り組んで行ければと考えております。

最後に、管理運営部門の仲間と地区役員・スタッフの皆様のご協力に感謝申し上げます。

また、岡村睦美ガバナーには部門運営に様々なご指導をいただきながら、未熟ながら1年間務めることができました。このような貴重な機会をいただきましたこと、岡村ガバナーに感謝申し上げます。ありがとうございました。



部門委員長・委員会委員長 =一年を振り返って=



2024-2025年度
クラブ活性化委員会 委員長
山口 恵美子
(川口モーニング)



クラブ活性化委員会の命題は、クラブ活性化のための円滑な運営を支援することといえます。そのため、6つのチャレンジ目標の実施を各クラブにお願いいたしました。

■2024-25年度チャレンジ目標

- ①マイロータリーに登録(特に新会員)する
- ②全クラブが「クラブ優秀賞(ロータリー賞)」にチャレンジする
- ③全会員の帰属意識(Blonging)を高める
- ④戦略計画立案する
- ⑤「4つのテスト」「中核的価値観」「行動規範」を各クラブの活動計画書に必ず掲載する
- ⑥ロータリーの普遍的な価値観、理念を持ち、誇りを持って行動する

上記のうち、特に、各クラブの未来への指針となる「戦略計画」の立案は、クラブ活性化のために必須とし、PELSを始めとするセミナー等で立案の意義・方法を説明すると共に、「戦略計画」の策定が難しいクラブ

には依頼に応じて、瀬田管理運営部門委員長が卓話に伺いました。年度末近くまで立案していないクラブへの働きかけを行った結果、ほとんどのクラブで、「戦略計画」が立案されました。

マイロータリーへの登録については、クラブセントラルへの入力も含めて、3月8日に公共イメージ部門と合同で「マイロータリーセミナー」を開催し、クラブ優秀賞(ロータリー賞)へのチャレンジや戦略計画の必要性を意識づける機会を作りました。

クラブ活性化委員会は、瀬田管理運営部門の統率力により、常にRLI運営委員会、規定審議会検討委員会と一緒に、管理運営部門合同委員会として開催され、広い視野をもった運営ができたと考えています。そして、管理運営部門関係のセミナーが常に三委員会の委員が協力し合って実施できることは、同じ志を持った者のつながりの強さを感じました。瀬田部門委員長を始め、管理運営部門の委員の皆様に心から感謝しております。

最後になりますが、私の所属する川口モーニングロータリーでは、既に、会長・会長エレクト・会長ノミニーが戦略計画を見直し、戦略計画委員会、次年度理事会を経て、次年度クラブ協議会にて、次年度以降の戦略計画が説明されました。単年度の行動計画も明確になり、クラブがより活性化することが期待されます。各クラブにおかれましても、「戦略計画」の立案に留まらず、見直しもお願いいたします。



2024-2025年度
RLI運営委員会 委員長
柳沼 憲一
(幸手)



本年度RLI(The Rotary Leadership Institute)委員会ではクラブ会員のロータリアンとしての知識を啓発し、将来のロータリークラブのリーダーシップを開発・養成することを目的とし、将来クラブのリーダーシップを進める事が出来る潜在能力を有するロータリアンを見出し、そのロータリアンの重要なリーダーシップ技能と質の高い内容を提供することを使命とし活動してまいりました。

ファシリテーターのアテンドの下、“自ら学び” “共に学び合い” “共に考える” という形式をとることで各クラブ参加者・ファシリテーター・RLI運営委員会メンバーが充実した時間を共有することができたのであれば幸いです。

本年度RLIパートIからパートIIIまで参加をいただいた各クラブ会員の皆様、ファシリテーターの皆様ご協力を

賜りまして本当にありがとうございました。
本年度の反省点・改善点を次年度委員会と共有しRLIをより進化させていくことができるよう努めて参りたいと思います。

本年度RLIの日程及び開催実績は下記の通りです。

2024年9月29日(日)

ファシリテーター・ラーニングセミナー

2024年11月2日(土)

RLIパートI 参加者:40名

2024年12月15日(日)

RLIパートII 参加者:43名

2025年1月18日(土)

RLIパートIII 参加者:51名

全て大宮ソニックスティ



部門委員長・委員会委員長 =一年を振り返って=



2024-2025年度
規定審議会検討委員会 委員長
多田 竜一
(川口)



規定審議会検討委員会は、3年に1回開催される規定審議会、1年に1回開催される決議審議会に当地区を代表して参加し、賛成・反対票を投じる代表議員を補佐し、地区としての対応を検討する委員会です。

2024-25年度は、規定審議会が開催される重要な年度でしたので、立法案が出揃った段階から勉強会を重ねました。

2025年4月13～17日にシカゴで開催された規定審議会では、ロータリーの組織規定(RI定款、RI細則、標準ロータリークラブ定款)の変更が審議され、

人頭分担金の総額や地区大会の毎年開催要件の削除などが採択(可決)されました。そこで採択された立法案は原則として本年7月1日、つまり次年度(2025-26年度)から効力を生じますので、2025年5月16日に、次年度の会長・幹事を対象に、地区事務所にて当地区的代表議員として規定審議会に出席した井原實パストガバナー(さいたま新都心RC)をお招きし、地区報告会を開催しました。この報告会は次年度の会長・幹事のみならず、Zoomで当地区的全会員に同時に配信しました。会場とZoomを合わせて100名近くの参加者でとても盛況でした。



2024-2025年度
公共イメージ部門 委員長
下館 貴子
(浦和)



あとひと月と幾日で岡村年度も終わり、私の公共イメージ部門委員長としての役目も任期満了となります。今は委員長という重責を肩からほどおろし、軽やかな心持になっております。

委員長という大役を仰せつかった時点からのおよそ1年5か月の期間は、私にとって様々な未知の出来事にチャレンジャーとして臨むようなものでした。前例のない抜擢であったことに多くのプレッシャーを感じましたが、岡村ガバナーや細淵パストガバナーはじめ他の地区幹事の皆様、経験豊かな部門委員長の皆様に温かいご指導をいただきながら、1年を通して活動できましたことは、感謝に堪えません。また、公共イメージ部門の委員の皆様にも恵まれて楽しく活動ができました。

皆様、ありがとうございます。

この1年5か月は、ロータリークラブにおける公共イメージ委員会の役割について、改めて考えるよい機会にもなりました。なぜ、部門の名称が広報部門では

なく、公共イメージ部門となったのか、改めて考えました。

以下は、あくまでも私の考えた公共イメージ部門に求められている役割です。

公共イメージ部門に本来求められている役割は、クラブや地区が活動をしている姿を、クラブ関係者のみならず、一般の方々にも伝え、ロータリークラブのイメージアップを図ることだと思います。それが会員増強につながり、ロータリークラブの基盤を盤石にした上で、各クラブが継続的に奉仕活動を行うことができるようになります。

クラブの皆様の奉仕活動をクラブ関係者間だけで共有するなど、奥ゆかしいというか、なんともいいないことだろうか、と思います。もう少しだけ、いろんな方々を巻き込んで、活動をアピールしてもいいのではないかと思います。募金や献血もすばらしい活動だと思います。しかしながら、クラブの垣根を超えて参加を呼びかけければ、さらに大きな活動もできますし、一般の方が参加できれば、次の活動にも賛同してくださる仲間も増えると思います。

いろいろな方にアピールする方法はいろいろあります。それぞれのクラブにあったアピールの方法を模索して実践することで、皆様のクラブの公共イメージの向上が図れれば、きっとロータリークラブの活動は将来も継続していくものと考えております。

引き続き、皆様の素晴らしい活動がクラブ間のみならず一般の方々の目にも止まるような広報活動を期待しております。



部門委員長・委員会委員長 =一年を振り返って=



2024-2025年度
会員増強維持部門 委員長
羽田 しげみ
(大宮南)



昨年のこの時期には、「ロータリーのマジック」「ここでの出会いが生涯の友情につながるかもしれません」というステファニー・アーチック会長のメッセージをご紹介いたしました。皆さんは今年1年間にどんな出会いがあったでしょうか?

次年度にならなければ数字では発表できませんが、増強でき仲間が増えたクラブさんもあります。増強できずに苦戦されていらっしゃるクラブさんもあります。

しかし、増強維持を考えてくださった皆さんは、ロータリーマジックで沢山の出会いがあったのではないでしょうか?

「会員増強維持は会長のやる気次第」とよく言われます。勿論やる気は必要ですが、今年1年、各クラブさんの増強維持の方法を拝見していますと、増強維持ができるクラブさんはガバナー補佐・クラブ会長・会員増強委員長・直前会長など3~4名のメンバーが一丸となり、増強に取り組んでダイバーシティの幅を広げていらっしゃいます。

確かに今までの人間関係の中で「入会して!」「了解!」とい

う方もいらっしゃるでしょう。

今、ロータリークラブは変化の時と言われております。過去と同じ形で増強維持を口にしても、なかなか結果が出ないのでしょうか?ロータリアンが減少していく中、変化をして仲間を増やさない場合にはロータリークラブの奉仕活動もままならないのですが、ロータリークラブの認知度が低いことにより増強が厳しいこともあると思います。

増強に答えはありませんが、①認知度を上げるために、奉仕事業などロータリアン以外が参加する事業の時にはロータリーを知っていただけるブースを作つてみる。

②クラブ紹介のパンフレットを作成して、入会申込書と共に気が付いたところには配ります。

③老若男女誰でも参加しやすい例会場作り(バリアフリー、おいしい食事など)

この3つを軸に今年1年間、増強についてたくさんの方とお話しさせていただきました。

会員増強維持は今年度から始まっています「3-Year Rolling Goals」の、地区での最重要事項となっております。今年度は荒れ地を耕し、蒔けるところには種を蒔いたつもりであります。次年度、若葉ができるか、花が咲くか、株が増えるか…間もなく次年度にバトンタッチいたします。大輪を咲かせてくださるのを願い、今年度のマジック終了です。

最後にアーチック会長の「私たちの1年が終わるとき、このマジックが続いていくようにする準備ができている人が大勢いるかは私たち次第です。」という言葉を思い出し、次年度に魔法のステッキをお渡しします。



2024-2025年度
職業奉仕部門 委員長
中川 富保子
(三郷)



職業奉仕部門委員長を仰せつかり、1年が経過致しました。

10年以上も在籍しているながら、ロータリーの事を何も知らずに、特に勉強もしないまま地区に出向して、与えられた業務のみ、こなして楽しんでおりました。そのような中で仰せつかった職業奉仕部門委員長という立場でした。知らない世界を覗いてみたい。という好奇心でお受けしてしまいましたので、それからは、思い切り沢山の本を読み学び調べ、勉強しました。そして、職業奉仕部門委員長として自分は、皆様のために何をすればいいのかを考えました。

講演会の開催や職場見学のご案内、職場披露の企画など、今まで色々なクラブで行っている情報を手にしながら考えてきましたが、どうもピンときませんでした。そもそも、職業奉仕部門が一体何をする部門なのかがわからなくなっていました。

そこで思った事は、これは私だけではない。きっと、皆

様も何をする委員会なのか、職業奉仕って何?と思っていらっしゃるのではないかと考えました。

それなら、皆様に、私と同じ原点に立って頂き、私が学んだ職業奉仕とは何か?という疑問を解決して行こう。そして、皆様と一緒にロータリアンのあるべき姿を考えていく。と決めました。

事業は、卓話一択。卓話を充実させる事を委員会の役目として、委員全員が同じ卓話をできるようにさせて頂きました。

色々なクラブを訪問するたびに、クラブによって反応の違いを感じることができ、卓話に行かせて頂く魅力に取りつかれました。お招き頂き、つたない私に例会の貴重なお時間を頂戴し学ばせて下さいました事に心から感謝申し上げます。

また、本年度の予算は、0円で計上させて頂くことに致しました。

委員会後の懇親会費や卓話に行く際の交通費など、実際は、活動する上でかかった経費はございますが、国際奉仕委員会や他の委員会の皆様が実費で海外に行ったり、活動をされている事を思えば、今年の職業奉仕委員会は、計上する経費はない。お金をかけなくても委員会活動ができる年があつてもいいのかな。と考えました。

楽しく学び、皆様と交流させて頂き、つたない私を支えて頂いた委員の皆様、部門委員長という場に立たせて頂いた、岡村ガバナーはじめ多くの方々に心から感謝申し上げます。

素敵な1年をありがとうございました。



ガバナー補佐 =一年を振り返って=



2024-2025年度
社会奉仕部門 委員長
吉田 耕之
(大宮シティ)



社会奉仕委員会は、2024-2025年度のメイン事業として、小児がんや重い病気の子どもとその家族の生活の質向上を目指す「ホスピタルファシリティドッgingプログラム」の啓発活動に取り組みました。

7月の職業奉仕・社会奉仕合同部門セミナーでは『日本のことでも病院で働くファシリティドッgingと育成』というテーマで、特定非営利活動法人シャイン・オン!キッズ事業部白子晶子様、ファシリティドッgingハンドラーの平沢佳奈様・池上茉実様(ZOOMにて)、そして以前長期入院中ファシリティドッgingに力をもらい治療を克服した中学3年生の少女をお迎えし詳細な説明を受け、ファシリティドッgingの素晴らしさが伝わりました。ホスピタルファシリティドッgingとは、子ども病院で小児がんや重い病気と闘う子どもたちとそのご家族に寄り添いサポートする病院に常駐する犬のことです。ファシリティドッgingが寄り添うことにより、小児がんや重い病気の子どもたちが治療を前向きに捉え、自尊心を保てるよう、子どもたちとその家族の生活の質の向上を目指します。

日本の子ども病院では、全国でもまだ4頭のファシリティドックしか導入されておらず、4か所の子ども病院でそれぞれ1頭が活動しています。我々社会奉仕部門委員会の願いとしては、埼玉県立小児医療センターにも将来是非導入出来ないだろうかという思いがあり、埼玉県立小児医療センターの方にも講演を聞いていただきたいと打診したところ、病院長はじめ主要な部署の方々が6名も出席してくださいました。埼玉県にも導入をという夢にほんの少し近づいたような気がしました。

11月の地区大会ではホスピタルファシリティドッgingについてのブース出展と募金活動を行い、多くの賛同を得ることが出来ました。

また、年度終わりギリギリの6月6日には『命をつないだ贈り物～ファシリティドッgingとの出会い～』というテーマで講演会を開催する予定です。第1部は特別非営利活動法人シャイン・オン!キッズより同会の理事長キンバリ・フォーサイス様にお越しいただき、あらためて「ホスピタルファシリティドッging」についてお話を聞きます。第2部は2021年8月にアメリカで心臓移植を受けた少女のお父様をお招きし、病気宣告時の心情、長期にわたる治療、渡米と募金活動の苦労と奇跡、アメリカの病院の様子、ホスピタルファシリティドッgingとの触れ合いとその効果など、様々な思い出やエピソードをお聞きします。

その他の活動として、6クラブと少ないですが、『SDGsとロータリー』について、三井地域社会奉仕委員長を中心にクラブへの卓話を実施しました。

結びに、少数精鋭の部門ではありましたがあまりある素晴らしい部門でした。地域社会奉仕委員会メンバーに感謝申し上げます。



2024-2025年度
国際奉仕部門 委員長
辻本 恵太
(大宮)



自由と責任を与えられる

国際奉仕の委員長を拝命したとき、少し戸惑いがあった。海外に縁が深いわけでもなく、語学に自信があるわけでもない。けれど、だからこそなのかもしれない。目の前に広がった未知のフィールドは、思いのほか自由だった。任命された直後、自分に課した問い合わせがあった。「この役割で、自分にしかできないことは何か」「自分が動ける自由の幅は、どこまでなのか」「今までの国際奉仕にこだわる必要はない。ゼロからつくっていい。」と言った岡村ガバナーのその一言に、背中を押された。こうして始まった国際奉仕の一年は、まさに「ゼロからの構築」だった。先人の積み重ねを壊す覚悟と、そこに新しい橋を架ける創造力。批判や懸念もあったが、失うものがないという自由な心が、私を前へと歩かせた。

ラオスとタイへの訪問(3360地区との交流)

今年度、最も象徴的だったのは、ラオスとタイ北部への訪問だった。これは所属クラブ(大宮RC)のプロジェクトとしての訪問ではあったが、同時に、私自身がラオスという国との現実を知りたくて行った旅でもあった。ラオスには、ロータリークラブが一つしかない。社会主义国の制約の中で活動しているビエンチャンRCの存在は知っていたが、それ以上の情報は限られていた。だからこそ、現地で実際に話をし、見て、聞いて、感じたことは、机上の知識をはるかに超えていた。さらに、同じ旅程の中で、私はタイ北部・チェンライRCの例会に参加した。同地区的アピサックガバナーとも面会し、偶然とは思えないほど自然に、国際協議会に参加して

いた熊木ガバナーエレクトにLINEをし、同地区のジャルワットガバナーエレクトを見つけるようお願いすると1時間余りで肩を組んだ2人の写真が送られてきた。こうして、次年度以降の地区間交流の道筋が生まれた。後で知ったが、このチェンライRCを含むRID3360には、ラオスの領域も含まれているという。ラオスという対象国を訪れたつもりが、気がつけばラオスとタイをまたいだ地域連携という視点を得ていた。その高揚感は、忘れられない。

心に深く残った出会いがある。RID3360のアピサック・ガバナー。私と同じくらいの年齢だろうか。表情が豊かで、思いやりがあり、そして統率力のある人物だった。少子高齢化の未来を憂いながらも、私の滞在中、ずっと自ら車を運転して案内してくれた。その姿から感じたのは、品格あるリーダーの在り方だった。気配りは細やかで、話し方は柔らかい。こういう人物となら、国を超えて手を組める。そんな確信があった。訪問中、ふと立ち寄った村長の就任パーティーでは、主賓として来ていた郡長(District Chief Officer)と話し、LINEを交換した。言葉は少ししか通じない。でも、不思議なもので、人は表情と所作で意図を読み取る。英語が苦手でも、行けば誰かが助けてくれる。動けば、何とかなる。そんな当たり前を、あらためて自分の身体で思い出すことができた。

韓国との親善(3750地区との交流)

もう一つ、大きな挑戦があった。それは、韓国のRID3750との姉妹地区交流の再構築。前年の4月、私は役職者会議で初めて3750を訪れたが、何も決まっていない状況だった。緊張感のある空気の中、当時の岡村ガバナーエレクトは不在。先方も、どこか不信感を抱いていたと思う。その後、帰国してすぐ、岡村ガバナーと話し合い、非公式ながら再訪を決めた。

6月、当時の岡村ガバナーエレクトに加えて、熊木ガバナー/ミニー、三枝ガバナーデジグネット、各青少年奉仕、ロータリー財団等のリーダーたちと共に渡韓。驚いたことに、先方もまた、3人のガバナーら及びリーダー層を揃えて出迎えてくれた。こうして、ようやく信頼の糸がつながった。200以上のLINEメッセージを担当者とやりとりし、Zoom会議を初めて開催し、次年度以降の足場ができた。これは外交でもあり、交渉でもあり、弁護士としての自分の職能にどこか通じる仕事だった。文化は違っても、最後は「人と人」。私はそう思っている。

国際奉仕部門 辻本恵太委員長の続きを読むは次ページへ



部門委員長・委員会委員長 =一年を振り返って=

国際奉仕部門 辻本恵太委員長の続き

テクノロジーの進化

この1年、色々なテクノロジーに助けられた。LINEには自動通訳をするボットを入れることができ、音声入力も非常に有用であった。ChatGPT等の生成AIを組み合わせながら、ほぼ同時通訳が実現できる。Pythonというプログラミング言語を用いて一定の条件による乱数のテーブル表を作ったり、AdobeIllustrator, Photoshopのみならず、画像生成AIであるFireflyを用いて多くの国際奉仕部門で用いる画像、イラストを生成したり、Runwayでキャラクターが動く動画にしたり。InDesignも初めて使い、使い勝手がわかったが、こういう機会がなければ使うことは無かったように思う。

最後にこの一年で、多くの人と出会った。とくに、バストガバナーの方々には、数えきれないほど助けてもらった。細淵PG、中里PG、小林PG、田中PG、井原PG、北PG。そして、故中川PG、故吉田PG。誰もが一癖も二癖もある。でも、皆が真剣で、温かくて、最後は味方になってくれる。この方々と過ごした時間は、私にとって「知恵の贈り物」だったと思う。

部門委員長という肩書が外れた後も、私はロータリーと関わっていくと思う。これまでと同じように、少し斜めから、自由に、遊ぶように、関わっていきたい。大義よりも、小さなやりとりの中に、親善も平和も芽生えると信じている。

その他、国際奉仕部門の意識したこと

- 1.フィリピン一局からの脱却(タイ、ベトナム、インド、モンゴル、ラオス、カンボジア等)
- 2.情報の一元整理(窓口担当の連絡先、奉仕活動の時期、内容、国際ロータリーでの位置付け等)
- 3.会議の記録化(他地区との会議・委員会等におけるアジェンダ、議事録の作成)
- 4.他部門との協調(ロータリー財団部門、青少年奉仕部門、公共イメージ部門など)
- 5.RID3750との関係性を維持
- 6.継続するべき事項の整理(双方の担当者の属人化を防ぎつつ、次の担当がしやすいように情報の整理)
- 7.予算の明確化
- 8.擬人化した相談窓口の設置(LINEワークスを用いて属人化を防ぐ)



2024-2025年度
青少年奉仕部門 委員長
黒白秀之
(大宮南)



本年度、青少年奉仕部門では、未来を担う若者たちの成長と国際理解の促進を目指し、三つの委員会——インターアクト委員会、RYLA委員会、青少年交換委員会——がそれぞれに充実した活動を展開しました。部門全体としても、若者のリーダーシップ育成と多文化交流の場を提供するという使命に基づき、相互連携と活動の質の向上を図ってまいりました。

インターアクト委員会では、インターアクト年次大会やインターアクト協議会を通じて地域の高校生たちを対象に、奉仕活動を通じた地域貢献の意識向上を目指しました。また、38年間続いている日韓交流事業については、異文化の交流を通じて、学生をはじめ日韓のロータリアンの友情を深めることができました。若者ならではの行動力を活かしたプログラムが多く実施され、地域社会との絆を深める成果を挙げることが出来たと感じています。

RYLA委員会においては、次世代リーダーの育成を目的とし、リーダーシップやチームワークの大切さを学び、実際の課題解決を通じて自信を深める機会を作りたいと考え、本年度も企画しましたが、残念ながら参加者を募ることが出来ず開催を中止いたしました。募集内容など各クラブへの連絡、メイキャップ、キャラバンなど周知活動が足りなかったのではないかと反省しております。

30年以上つづく当地区のRYLA事業、地域リーダーとなりえる沢山の若者に経験を重ねてきており

ます。そして、この事業は研修だけに終わらず卒業生による継続的なネットワークの形成も進み、長期的な人材育成の基盤を築いていける素晴らしい活動です。このことを踏まえ次年度へしっかりと繋げていくためにも新旧の委員さんと連携を取り進めいかなくてはなりません。今後も時代にマッチした変化を生み出しながらRYLA活動に大いに期待していきたいと思います。

青少年交換委員会では、世界各国の若者と日本の学生との文化交流を推進しました。ロータリーの青少年交換プログラムは、世界一安全な留学制度といわれています。参加者の安全を確保しつつ意義ある体験を提供することができました。異文化理解と国際的な友情の芽生えは、参加者にとって一生の財産となることでしょう。その土台を支えているのは、委員長はじめ委員会の方々やクラブ、ホストファミリー、沢山の関係者の方々のご理解ご協力がございました。今後も一人でも多くの青少年に出会いと感動を与えるため2770地区全体で支えていかなければいけない活動です。

一年を通じて、各委員会の努力と創意工夫により、多くの成果が得られました。青少年奉仕部門は、これらの活動を土台に今後もさらなる連携と発展を目指し、より多くの若者に「奉仕の心」と「グローバルな視野」を育む機会を提供していけましたら幸いでございます。最後にこの一年間、岡村ガバナーはじめ地区委員の皆様に支えて頂き活動を進めることができました。

心より感謝申し上げます。



部門委員長・委員会委員長 =一年を振り返って=



2024-2025年度
青少年交換委員会 委員長
山田 託也
(越谷)



青少年交換委員会の委員長として過ごしたこの一年は、私にとって非常に充実し、多くの学びに満ちた時間でした。来日学生の受け入れと同時に、日本からの派遣生のサポートにも携わることで、国際交流の意義を改めて深く感じる機会となりました。

海外から来日した留学生にとって、日本の文化や生活習慣は新鮮で時に戸惑いもあったかと思いますが、クラブの皆様やホストファミリーの温かい支えにより、少しずつ笑顔を見せてくれるようになったことが何より嬉しかったです。言葉の壁を越え、お互いに理解し合おうと努力する若者たちの姿には、私自身も多くの「出会いと感動」をもらいました。

一方で、日本から派遣された生徒たちも、それぞれの派遣先で多くの挑戦を経験しています。初めての環境に不安を抱えながらも、現地の人々との交流を通じて自分の可能性を広げ、帰国

後には一回りも二回りも成長した姿を見せてくれました。

彼らの体験談を聞くたびに、この国際ロータリーが推奨するプログラムの持つ力を改めて実感しました。委員長という立場は、企画の立案から実務的な調整、緊急時の対応まで幅広い責任が伴いましたが、委員の皆様や歴代の委員長の知恵と協力に支えられ、無事に一年を終えることができました。

この一年を通じて派遣前後の心のケアや、来日学生と地域とのつながりを築く工夫、そして「なぜ君たちは交換留学を希望したのか」を特に力を入れて取り組んできました。また異文化理解の大切さや、若者の柔軟性、そして人と人とのつながりが生み出す可能性に大きな希望を感じさせていただきました。次年度を担う方々にも、この活動の意義を感じながら、ぜひ柔軟な心で楽しんで取り組んでいただければと思います。

最後に、この活動にご理解とご協力をくださったすべての皆様に、心より感謝申し上げます。来日学生を家庭に迎え入れてくださったホストファミリーの皆様、日々の活動を温かく見守り支えてくださったスポンサークラブの皆様、そして常に若者の視点で力強く支援してくださったローテックスの皆様に、あらためて深く御礼申し上げます。皆様のご支援があってこそ、この交換留学プログラムは成り立っています。この青少年交換留学プログラムが、これから多くの若者の未来を拓き、世界との架け橋となることを願ってやみません。



2024-2025年度
RYLA 委員会 委員長
野本 悅子
(大宮南)



本年度は、例年実施してまいりましたRYLA(ロータリー青少年指導者養成プログラム)研修会の開催を誠に残念ながら中止となりました。しかし、この「開催できなかった一年」は、私たち委員会にとってこれまでの歩みを振り返り、その価値を再認識する貴重な機会となりました。

第2770地区RYLAの歴史は30年以上という長い年月にわたり開催され、時には200名を超える参加者を迎える多くの若者たちに成長の場を提供してきました。リーダーシップとは何か、人との関わりはどうあるべきかを考えるこの研修は参加者にとってだけではなく、私たち主催者自身にも「共に学べる姿勢」が求められる場でありロータリーの基本理念である「超我の奉仕」を実践する貴重な機会でもありました。過去の実施記録、写真やアンケート結果を改めて見返すと、一人ひとりの参加者の中に確かに変化が生まれていたこと、そしてその変化がまた周囲に良い影響をもたらしていたこと、単なる研修ではありません。未来を担う若者たちが「気づき」「学び」「行動する」きっかけとなる、かけがえのない場なのです。

からの時代、社会の変化はますます加速していきます。その中で、次世代に向けた教育・育成の在り方も柔軟に、そして本質的であることが求められます。RYLA研修会もまた、これまでの歴史と成果を礎にしながら、持続可能な次なる一步へと進む必要があります。私たち主催者は、これまで以上に若者たちに誇れる学びの場として、今後もこのRYLAの活動を次世代へとつないでいかなければなりません。

開催が叶わなかったこの一年ではありましたが、委員会ではその時間を活かし、過去の実績や運営方法を多角的に検証し、RYLAのこれからについて真剣に議論を重ねてまいりました。その一環として、本年度末には岡村ガバナー・熊木エレクト・三枝ノミニー・黑白青少年奉仕部門委員長と共に座談会を実施し、これまでの活動の振り返りと、今後への課題・改善点について活発な意見交換を行いました。その中で挙がった主な検討・提案事項は以下の通りです。

- ・各クラブにおけるRYLAの認知度向上
- 各クラブ内外での情報共有の工夫、過去の成果の発信強化
- ・申込方法・プロテストの工夫
- より参加しやすく手続きの簡素化やPR戦略の見直し。
- ・プログラム内容の更なる充実
- 時代や社会に即した学びを提供し、より実践的で魅力的な内容に。
- ・運営における改善点・反省点の共有
- 準備期間の確保、役割分担の見直し、引き継ぎ体制の明確化など。
- ・参加者の成長を継続的に支援する仕組み(ライラリアン)の持続可能性
- 参加後も繋がりを持ち、研修会に関わり続けられる仕組みづくり。

こうした議論はすべて、「より良いRYLAを次世代へつなげたい」という共通の思いに基づくものです。この報告が来年以降の委員会活動の参考となり、またこれからもRYLAがより豊かな学びの場として発展していく一助となれば幸いです。私たちはこれからも、未来を担う若者たちのために、この素晴らしい研修会を誇りをもって引き継いでいきたいと思います。

最後になりますが、これまでRYLA委員会活動を力強く支えてくださった岡村ガバナー、そして共に方針を築いてくださった黑白青少年奉仕部門委員長に心より感謝申し上げます。また、日々の運営にご尽力をされた委員会の皆様、さらには過去の情報提供やアンケートへのご協力いただいた歴代の委員長、ロータリアンの皆様に、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。



部門委員長・委員会委員長 =一年を振り返って=



2024-2025年度
インタークト委員会 委員長
北條 健二
(川口 / 鳩ヶ谷武南)



わたし自身、2019年より2024年まで、第2770地区の青少年奉仕部門へ出向し、ローターアクト委員会の方へ所属しておりましたが、最後の1年間はインタークト・ローターアクト委員会という2つの委員会が合併し、インタークトに関しましては初めて関わる事業でした。

そして、2024-2025年度はインタークト委員長に任命されてしまったせいで、右も左も分からず、不安なまま委員会運営を始めたのも記憶に新しいところです。

そして、あれよあれよという間に、インタークト年次大会、顧問教師会との交流会、そして5年ぶりに開催された日韓合同会議のための韓国3750地区への訪問、そして最後にはメイン事業である訪日団・訪韓団と、息をつく暇

のない1年だったと実感しております。

昨年の2月時点では、例年に比べ大幅な予算の削減により、38年間継続していた訪日団・訪韓団事業を行なうことが出来ないのでは?という不安の中で今年度を迎えた。

しかしながら、黒白部門委員長の細やかな、そして気遣いあふれるリーダーシップ、そして頼もしいインタークト委員の存在、そして訪日団・訪韓団における渡邊パストガバナー(訪韓団団長)の第3750地区における高い影響力のおかげで、終わってみれば韓国側からも今回の訪日団・訪韓団事業が非常に高い評価を頂けたのが本当に嬉しい限りでした。

次年度のインタークト委員会に関しましては、本年度のインタークト委員から星野青少年奉仕部門委員長そして鳥井インタークト委員長として、よりパワーアップした訪日団・訪韓団事業を行って頂けると期待をしております。

最後に、1年間を通して感じたことは、青少年奉仕という言葉の通り、学生そして若者が主役の事業であり、ロータリー側としては、あまり口は出さずにお金は気持ちよく出してあげ、学生そして若者たちが将来のロータリアン候補生として貴重な経験をしてもらうと共に、ロータリー側はそれを見守る位の立ち位置でいたら、より意義のある、素晴らしい組織になるのではと感じております。



2024-2025年度
ロータリー財団部門 委員長
白井 靖
(川口)



今年度の財団は5つの方針をもとに活動してきました。

- 部門委員会の横のつながりを深める
- 財団6委員会は委員会の交流をふやす
- ポリオ根絶のため、ポリオ・プラス・ソサエティの設立と100名の達成
- ポール・ハリス・ソサエティの設立と100名の達成、その後の認証式を地区大会でおこなう
- 平和構築推進のため、平和フェローの講演活動をすすめる。奉仕部門と連携して、平和活動に関する地区補助金事業をすすめる。また、寄付の目標としては、下記の目標をもとに活動して参りました。

2025年5月20日現在

・年次寄付(会員1名あたり200ドル以上)
会員2,198人目標439,600ドルに対して年次寄付累計388,175ドル 88.3%
・ポリオ・プラス基金(会員1名あたり50ドル以上)
会員2,198人目標109,900ドルに対してポリオプラス基金累計94,302ドル 85.8%
・恒久基金(ベネファクター会員50名未満のクラブ1名、50名以上のクラブ2名)
蓮田・春日部・川口北・川口3名・越谷北・越谷・大宮南・大宮中央・大宮東・大宮西・大宮・さいたま櫻・浦和東2名・浦和中・浦和ダイヤモンド・浦和2名・吉川 ○ベネファクター 17クラブ・21名
・ポリオ・プラス・ソサエティ(P.P.S)100名・各クラブ1名、50名以上のクラブ2名)
浦和・浦和東33名・浦和中3名・浦和北東3名・大宮2名・大宮南・大宮中央・大宮シティ2名・さいたま櫻3名・大宮西18名・岩槻2

名・大宮東2名・上尾・鴻巣・桶川6名・上尾西3名・春日部西・春日部イブニング・蓮田・幸手中央4名・越谷3名・越谷北4名・越谷東・越谷中・八潮3名・八潮イブニング・三郷・三郷中央6名・川口24名・川口東・川口モーニング・川口シティ鳩ヶ谷4名・戸田8名・川口北 ○参加クラブ68クラブ中34クラブ 地区累計148名
・ポール・ハリス・ソサエティ(P.H.S)100名・各クラブ1名、50名以上のクラブ2名)

浦和2名・浦和東13名・浦和中5名・さいたまシティ2名・浦和北東3名・さいたま新都心・大宮2名・大宮南2名・大宮中央・大宮シティ4名・さいたま櫻・大宮西2名・岩槻2名・大宮東2名・上尾6名・桶川3名・上尾西・鴻巣水曜・鴻巣イブニング・春日部2名・杉戸・春日部西・春日部南・春日部イブニング2名・幸手・蓮田・幸手中央4名・越谷2名・越谷南・越谷北4名・越谷東・八潮6名・吉川3名・三郷3名・三郷中央2名・川口20名・川口東・川口モーニング3名・戸田2名・川口西 ○参加クラブ68クラブ中40クラブ 地区累計117名 今年度73名

・冠名基金(地区3名以上)1名
・メジャードナー(地区3名以上)4名
・アーチクランフソサエティ(地区1名以上)0名

財団部門は、2023年11月19日神戸でのロータリー財団地域セミナーで全国の財団関係者のセミナーから始まりました。主な活動として、2024年2月28日の地区補助金セミナー、2024年9月13日国際・財団部門合同セミナー、2024年11月16日午餐会17日地区大会の青少年・米山部門とのポリオ募金活動をおこないました。

ソサエティ促進のポリオ・プラス委員会(P.P.S)、資金推進委員会(P.H.S)のほかは、地区補助金の申請・報告等の地区補助金運営委員会・グローバル補助金の補助金、VTT委員会・財団奨学生の試験・オリエンテーション等平和フェローのサポートの財団奨学・平和フェロー・学友委員会等の活動がございます。

今年度は特にP.P.SとP.H.Sの寄付参加者の各100名という目標のもとに活動させて頂きました。1年間を通じての感想は、寄付していただくためには各クラブに伺うことが大事なことがあらためてわかりました。ご協力くださいました各クラブ様、12Gのガバナー補佐の皆様、部門委員長の皆様、今年度の財団部門の皆様有難うございました。

ロータリー財団は、ロータリーの会員の皆様の寄付によって支えられています。今後も皆様のご支援ご協力よろしくお願い致します。世界で良い事をしよう!

部門委員長・委員会委員長 =一年を振り返って=



2024-2025年度
米山記念奨学部門 委員長
小林 達郎
(幸手中央)



今年度米山記念奨学部門では、小川和義委員長(鴻巣イブニングRC)を中心に増進委員会7名、小平啓介委員長(大宮南RC)を中心に学友選考委員会6名、副幹事1名の合計14名で活動を行いました。

米山記念奨学部門は他の部門と異なり、各委員会独自の活動ではなく、常に合同委員会を行い事業に取り組みました。主なものは、8月部門セミナー、10月カウンセラー研修会、11月地区大会(青少年部門と共同でポリオ募金活動)、秋のバス旅行、12月感謝の集い、1月次年度米山奨学生選考試験、3月修了式、4月新入生オリエンテーション、入学式、5月米山学友会主催親睦旅行です。またその間、各事業の準備のための委員会の実施、各クラブへの奨学

生卓話の同行、大学指定校説明会などを行いました。これらの事業を成功裏に行うことができたのは、小川増進委員長、小平学友選考委員長を中心に、各委員会メンバーの強い団結力、協力があったからだと思います。

また、良かったことは、米山奨学生の入学式から修了式まで携われることにより、奨学生の成長が実感できました。各クラブ、カウンセラーのご努力やこれらの事業により、奨学生のロータリー活動に対する理解、国際親善、日本との架け橋など、米山奨学事業の精神は、奨学生に十分伝わっていると確信しています。そして、今後の活躍に期待します。

最後になりますが、この1年間多くの皆さんにお世話になりました。小川増進委員長、小平学友選考委員長を始め委員会の皆さん、副幹事の金子さん、本当にありがとうございました。感謝。

ガバナー公式訪問

鳩ヶ谷ロータリークラブ

令和7年1月17日

会長:吉川大介 幹事:村上博康

令和7年1月17日、岡村睦美ガバナーが当クラブを訪問されました。岡村ガバナーより、午前中の面談では、現会長幹事及び会長エレクトの3名に対して有益なお話をいただきました。特にインター・アクトやロータリー・アクト等、若い方々のロータリーの活動の推進に関し、成功している具体例を交えて興味深いお話をいただきました。

また例会では、今期の当クラブでは、夜間例会を積極的に増やし、楽しく魅力的なクラブの実践に努めていることをお伝えしたところ、岡村ガバナーより、その実践ができており、例会がとても明るいとおっしゃっていました。

今後も楽しく魅力的なクラブを実践しながら奉仕活動に努めるとともに、会員増強に努めます。



未来の扉座談会 ～これからの RYLA を考える～

黒白委員長

皆さん、こんにちは。本年度青少年奉仕部門委員長の黒白秀之です。どうぞよろしくお願ひいたします。本日は、国際ロータリー第2770地区青少年奉仕部門RYLA委員会座談会を皆さんにお聞きいただけたらと思っております。これからのRYLAを考える、ということで、本日、座談会を開催させていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

本日の参加者の紹介をさせていただきます。まず初めに、岡村ガバナーよろしくお願ひします。それから、熊木エレクト、よろしくお願ひします。それから、三枝ノミニー、よろしくお願ひいたします。それから、本年度RYLA委員長の野本委員長、よろしくお願ひいたします。

それでは、本日の課題から1つ1つ進めていきたいと思います。まず初めに、RYLAの目的とは何かということで、野本委員長の方から説明をいただきます。

野本委員長

RYLAの目的とは、リーダーシップを発揮したい、自分の可能性を広げたい、世界を変えたい、若者がそんな考えを実現する第一歩となるのが、「ロータリー青少年指導者育成プログラム(RYLA)」です。ロータリークラブまたは地区が実施するこのプログラムで、若い人たちが新しい友人を作り、楽しみながらリーダーシップのスキルを磨いています。

黒白委員長

それでは2番目に、RYLAでできることとは何でしょうか。

野本委員長

RYLAでできることですが、地元で活躍する人や豊かな経験を持つ人たちと一緒に、次のようなことが可能となるよう、プログラムが組まれています。

- ① コミュニケーションや問題解決のスキルを磨く
- ② 学校や、地元地域で活躍できるリーダーとなる方法を発見する
- ③ 地元を動かすリーダーによる指導、意欲を高めるような講演により、仲間たちとの交流を通じた学びを得る
- ④ 自分の可能性を発見し、行動へつなげる。
- ⑤ 楽しみながら生涯続く友情を培う。

以上があげられます。

黒白委員長

続きまして、RYLA研修の歴史について、よろしくお願ひします。



野本委員長

RYLAの歴史は、1959年、当時22歳だった英国のアレクサン德拉王女がオーストラリアを訪問したことを記念して、オーストラリアのクイーンズランド州で始まりました。その後、運営委員会がこのプログラムを若者の人格、リーダーシップ、自己啓発、善良な市民としての役割を育成するための毎年の取り組みとして採用しました。

黒白委員長

近年の、この地区の、 RYLA研修会の歴史について説明をお願いします。

野本委員長

第2770地区の青少年奉仕部門RYLA年表を作させていただきました。始まりは1989年から1990年と思われます。これは未確認なのですが、ここからスタートいたしました。年表の方を見ていただくとわかるかと思うのですが、昨年、2023年から2024年にグアムで平和の構築を学ぶ研修を行ったということで、ちょうどこの地区では31年の歴史があることがお分かりいただけると思います。今年になって32年目ということになりますね。

黒白委員長

はい、ありがとうございます。続いて、近年の研修内容について、野本委員長の方からお願ひいたします。

野本委員長

はい。それでは、近年の研修会の内容をご紹介したいと思います。詳しくは概要欄の方を見てください。

直近での、2018年度から2019年度の屋久島環境文化センターに行った時の内容を紹介いたします。2泊3日で行った研修では、一般18名、ロータリアー6名、米山5名、ロータリアンが10名、合計45名の参加があったようです。良い点としては、次の点があげられます。

- ① 研修会を通じて交流が深まる。
 - ② テーマに沿った研修、学習は参加者のその後の生活に有意義なものと思う。
- 課題、改善点としては、参加者の交流が広がり、ライラリアンの交流会を開催できる環境を将来的にわたって継続してサポートすること、また、宿泊研修会費の負担、があげられています。

黒白委員長

それでは、先日行われました地区クラブリーダーシップラーニングセミナーの会長部会で、会長エレクトの皆様にとらせていただきました、クラブでのRYLAについての認知度調査の調査結果を、野本委員長よりご報告させていただきます。

野本委員長

まず質問①クラブでRYLAの目的等について理解されていますか、という質問について。1.している、が17名、2.あまりしていない、が32名、3.全くしていない、が4名、4.興味がない方が1名。この質問①によって次の項目の回答が大きく変わってくるのですが、54名の回答の中で、ほとんどがRYLAを知らない、という結果がこの数字に出ているのかなと思うんです。RYLAの認知度が、会長エレクトの中には少なかったのかなって感じました。それから、RYLAの研修の案内はクラブ内ではどのように周知していますか、という質問③なんですが、これは1、2、しているという方々の返答、ご回答しか見られませんでした。ほとんどがメール、それから例会で紹介する、興味のある方のみに紹介している、という数字が載っています。質問③実際に参加された方々ですが、以前は地域の青少年、それから会員企業の社員の方々の参加が多かったのですが、最近ではローターアクトですか、ロータリアンのご子息の方、米山奨学生の参加も数名出でていたようです。

黑白委員長

はい、野本委員長、ありがとうございました。それでは、続いて、今後改善すべき点、継承すべき点、色々あるかと思いますが、今の報告を交えて、岡村ガバナーからご意見いただけたらと思います。よろしくお願ひします。

岡村ガバナー

RYLAについて、野本委員長から詳しい、今まで私たちの地区が行ってきたRYLAについての報告があったと思います。31年間の長い間、RYLAを研修してきて、実施してきて、ここで色々な改善点や、問題点、そしてまた検証すべき点等をはっきりさせていくことによって、これからの私たちの地区的RYLAのあり方を考える、そういった1年にしたかった、という思いです。

黑白委員長

岡村ガバナーありがとうございました。続きまして、熊木エレクトからご意見お願ひいたします。

熊木ガバナーエレクト

最近のRYLAを鑑みまして、次年度はもう1度原点に戻って、RYLAの本来の目的を見直したいなと感じております。

黑白委員長

はい、ありがとうございました。続きまして三枝ノミニーからご意見よろしくお願ひします。

三枝ガバナーノミニー

やはりRYLAについて、少し考える時間が必要だったということで、岡村ガバナーよりご案内をいただいた通りだと思います。おそらくこういった30年の歴史がありますので、その中で成果と、あるいは成功事例、そういったものをどんどんアピールしながら、それを継続して申し送りすることによって、どんどんいいものが繋がってくるんじゃないかな、そんなふうにちょっと思っておりま

黑白委員長

はい、ありがとうございました。私の方も1つお話をさせていただければと思います。このRYLAは、やっぱり青少年のリーダーシップということで、世界平和や環境問題、それを自分たちで立案して、計画して、研修会を行い、その中でリーダーシップを養っていくといったような素晴らしい事業でございます。これをしっかりと継承して、次年度に引き継いでいきたいと思いますので、皆さん、どうぞよろしくご理解のほどをお願いいたします。続いて、野本委員長からも何かご意見いただけたら。

**野本委員長**

今年1年、色々RYLAのことを勉強させていただきました。思っていたものとまた違った部分も、それから感じ取っていたはずのものがこう大きく違っていたのかなって部分も出てきております。自分の中では、で、何が1番大事なのかなっていうことは、誰だってこれをやりなさい、あれをやりなさいって子どもたちに提供するのではなく、**参加している青少年の方、若い方が自分で考え、自分でどういう風に解決をしていくか、それがRYLAの1番良い点なのかなっていうことに気がつきました。**もちろん、私たち大人もそれを手助けすることによって、自覚をしながら共に育っていくかなくちゃいけないのかなっていうふうに1年間を通して感じました。

黑白委員長

はい。野本委員長ありがとうございます。私、部門委員長として、次年度の部門委員長にもしっかりと情報共有していますし、情報交換もしっかりといます。次年度もRYLA委員会の予算を年度でとっていますので、熊木エレクトにどうやって当地区のRYLAを継承して、次の三枝ノミニーに繋いでいくのかというところも含めて、お話いただければと思います。よろしくお願ひいたします。

熊木ガバナーエレクト

この青少年プログラムの中で、RYLAということですが、**次世代のリーダーを育てる**ということを大切にしております。この青少年プログラム、インタークトプログラム、そしてRYLA、青少年の交換とありますけども、この短期集中型のRYLA、次年度に期待したいという風に思います。

**黑白委員長**

はい。熊木エレクトありがとうございます。熊木エレクトのお話を聞いてですね、三枝ノミニーに繋いでいくわけですが、三枝ノミニーのお考えも少し聞かせてください。

**三枝ガバナーノミニー**

1度原点に帰るという意味では、今エレクトの方からありました通りです。次世代のリーダーを育てる、そういったプログラムでございますので、ただ、じゃああなたたち勝手に育ちなさいよって、っていっても育たない。すると、**我々が一緒にになって、我々は青少年に対して強い関心を持っていますよ、あなた方のことも知りたいっていうことも示していく。そして、是非我々が背中を見せられるような、そんな存在になれたらしいですよね。**そういった中で、最近のICレコーダーとか、ほんとすごく、文字起こしはもちろんんですけども、そういうものから要約とかマインドマップとか、そういう機能もできるようになっていまして、そうすると非常に、例えばそういうRYLAの中でワークショップとか開いた時に、それはすぐこう画像化して印刷できる。非常に今、そういうことかなりできると思いますので、そういうものも活かしていけらいいのかなと思います。そして、そういうところで育っていただいたリーダーが、また今度こういったRYLAの中で、次世代の、その次の年もまたリーダーになっていただく。そういう流れができれば、また持続可能性とかそういうものに繋がっていくかなということもありますので、そういうところに傾注してまいりたいと思っております。

黑白委員長

はい。三枝ノミニー、ありがとうございます。熊木エレクト、三枝ノミニーのお話を聞いて、Three year rolling goalsという今後3年間を引き継いでいくという目標もありますが、そういうことも含めて、まとめに、岡村ガバナーから、今後のこの引き継ぎをどのようにしていけばいいのか、またどのようにしていただきたいのかというところも含めてお話いただければと思います。

岡村ガバナー

まず、当地区的RYLAの歴史30年間を、色々と野本委員長がまとめていただきました。30年こういうことをやってきたっていうことをまとめていただき、改めて知ったことでは、すごく大きな意義があったと思っています。3つポイントがあったと思ってますが、まず、**RYLAの認知度をもう1回、全クラブ会員に周知してもらうこと。**そして、どうやってRYLAに参加する人を集めのか、集め方をもう一度考え直す。そしてまた、その運用の仕方、費用の問題、そういうものも、もう1度改めて考え直すこと。今黑白部門委員長がおっしゃった通り、3年間かけて私たちの地区のこれからのRYLAのあり方に、1つの方向性が見えるようにしていたらなど、そんなふうに思っています。そのきっかけの1年であった、というふうに考えています。

黑白委員長

はい、ありがとうございました。それでは、今回この地区青少年奉仕部門、RYLA委員会座談会、これからのRYLAを考える、皆様、いかがだったでしょうか。どうぞ、今後も、この委員会に対して、皆様のご協力、よろしくお願ひしたいと思います。





未来の扉座談会～地区女性会員座談会～ 前編

司会

皆様こんにちは。本日は、岡村ガバナーと本年度の各委員会の委員長の方々にお集まりいただきまして、女性会員を増やすには、というテーマでお話を伺いたいと思います。まず最初に皆様の方から自己紹介をお願いします。

山口さん

皆さん、こんにちは。本年度管理運営部門クラブ活性化委員長を務めております山口恵美子と申します。川口モーニングロータリークラブに所属しております。よろしくお願ひいたします。

中川さん

皆様、こんにちは。三郷ロータリークラブから出向しております、本年度職業奉仕部門委員長を務めております中川富保子と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

羽田さん

はい、皆さんこんにちは。大宮南ロータリークラブから出向しております、本年度会員増強部門委員長の羽田しげみでございます。よろしくお願ひいたします。

橋本さん

皆様こんにちは。大宮南ロータリークラブから出向しております。今年度は財団奨学平和フェロー学友委員長を務めさせていただいています、橋本洋子です。どうぞよろしくお願ひいたします。

三井さん

こんにちは。浦和東ロータリークラブから出向しています、今年度地域社会奉仕委員長を務めております三井由美子と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

岡村ガバナー

ガバナーの岡村です。川口ロータリークラブから出向しております。今年度は初めて地区の部門委員長に女性が3人、そしてまた委員長にも多くの女性の方に就いていただきました。女性にたくさん活躍していただこう、そういう地区の活性化を図ろうと思っております。今日は、皆さんが実際地区やその他で活躍されていて、実際体験した色々な経験談、ご意見、そういうことを本音で聞けたらいいなと思います。そしてこれからどうやって女性会員を増やしたらいいのか、そういう話までできればいいなと思ってお集まりいただきました。よろしくお願ひいたします。

司会

それでは、皆様に、委員長就任にあたりましてのご苦労、それから1年間を通して大変だったことを順番にお伺いしたいと思います。

山口さん

私は元々地区の方に出る予定はなかったのですが、岡村ガバナーからの推薦を羽田委員長経由でいただきました、クラブの方にも話をしましたところ、皆さん、ぜひ出るべきだと言っていただきましたし、部門委員長が瀬田部門委員長ということで、勉強になるから是非出なさいという話もあって、地区の方に出向いたしました。1年間の苦労、委員長としてはないのでされども、本当に瀬田部門委員長や同じ小委員会の委員長さんに支えていただき、本当につながらなくなという点では、自分の力というよりも、周りの皆さんのおかげだなというふうに思っているところです。

中川さん

地区に出向させていただくにあたりましては、いろいろな他の委員の方は経験してきましたが、職業奉仕部門というのは初めてでしたし、どういったことをやるのかがわからずでした。そのことをとても勉強するのに、自分自身苦労したなという風に思っております。ですが、岡村ガバナーをはじめ、たくさんの方々にご協力をいただきまして、1年間かけて勉強させていただき、また、皆様からサポートをいただいて、楽しくやることができました。

羽田さん

私は昨年度も部門委員長ということで出向させていただきました。今年度も、というお話をいただいた時に、クラブでは2年間続けて出なくともいいだろうと反対をされまして、岡村ガバナー、細淵パストガバナー、それから今は亡き中川パストガバナーにご尽力をいただきまして、理事会を通して、一波乱ありながらも出向させていただきました。皆さんに迷惑かけた分、頑張らなくてはと思って色々頑張ったのですが、今年度が始まる前にやはり疲れて、去年のちょうど今時期に倒れましたが、なんとか1年間皆さんの協力があってできました。女性部

門委員長というのは、気負いがあって大変だなってつくづく思っています。

橋本さん

私は今年度、財団奨学平和フェロー学友委員長を仰せつかったのですが、やはり初めての経験で、特に平和フェローについては何の知識もないまま受けてしまいました。ですが、同じ財団のメンバーの方に色々アドバイスを受け、また楽しく委員会活動ができた、今年度はとても幸せな1年間だったと思います。

三井さん

私、実は委員長をやる前の年に同じ地域社会奉仕委員の方をやらせてもらっていたので、経験があった上で委員長を務めさせていただくということだったので、流れはわかつてました。また、部門委員長の方がとても素晴らしい方で、皆さんの協力を得て、すごい楽しい委員会活動を現在もしています。

司会

岡村ガバナーにお伺いします。ガバナーをお引き受けになった時の最大のポイントは何だったのでしょうか。

岡村ガバナー

やはり女性ガバナーが出るということで、女性会員の人が、次は自分の番だというか、そういう役職に躊躇なくついてもらえたらしいな、それから女性会員が増えたらいいな、そういう意味でやるべきだなっていう思いが1番自分の背中をしたことです。

司会この1年、女性だからということで大変だったということはありますでしょうか。

山口さん

私の場合、管理運営部門はいつも合同で委員会をしていたのですが、女性はその中で2人でしたが、特に女性だから大変だったということになかったです。3部門合同だったので視野も広がりましたし、色々なことができたかなと思っています。特に、私の担当するところでは、戦略計画を作るということがありましたけれども、今も皆で協力をして各クラブの戦略計画ができたかどうかという確認をしています。私1人がやるのではなくて、皆で確認をしているという、とてもいい委員会だと思います。

中川さん

女性だから苦労したということではなく、逆に皆様がサポートしてくださったということで、大変楽しくできてよかったです。

羽田さん

女性だからというか、女性だから気が付いたこと、女性部門長だから気が付いたことというのあります。実は皆さん全然思ってなかたのかもしれません、私が各クラブに卓話に行かせていただいた時に、女性トイレがない例会場があるということに気が付きました。これが女性を増やしたいというクラブでも、女性のトイレがないと女性メンバー増えるわけがないと思うのですよね。その辺が、やはり気付けて良かったなって思うのと同時にですね、女性メンバーだけではなくて、DEIプラスBELONGING、居心地がいいクラブを作るにはどうしたらいいかということを考えると、やはり外階段で3階まで上がるような例会場だとご高齢になられた方がクラブを続けられなかったりとか、いろんなことがあるので、そこを変えたりと考える時が今なのではないかなということをつくづく考えられさせられました。

橋本さん

財団奨学平和フェロー学友委員会では女性は私だけだったのですが、財団部門では女性の方が何人かいましたので、楽しくアドバイスを受けながら委員会活動できましたこと、今年はほんとに幸せな1年でした。

三井さん

私の仕事自体が建築業なので、ほとんど女性1人ということが仕事の中では当たり前なので、反対にロータリークラブは女性もいるということと、あと、とてもリスペクトしてくださるので、とてもいいと思いました。ただし、女性が社会に進出するときに問題だと思うのは、子育てや家事をやりながら社会で活動するということかと思います。私も子供が今年この3月まで大学受験があったので、やはり夜出かけるとか遅くなるとか、そういうのは大変体力的に厳しいものがありました。

司会

岡村ガバナーから、今までの発言に対して何か感じたことはありますでしょうか。

岡村ガバナー

時間帯の問題、例えば夜の飲み会とか懇親会で仲良くなつて、それなりの人脈を作りながらやつてはいるという男性の社会の中で、なかなか女性が子育てとかといったことを担いながら参加するのは問題があるというのが現実ですよね。そういう、人間関係を作りにくい状況の中で、自分の人脈作つたりとかが時間的にタイトであるというのが現実だと思います。そうなると、では、そういう女性が委員長とか部門委員長とかそういう組織の役職に就いた時に、その委員会の中で人脈を作るとか、そういうところが、もしかしたらものすごくハンデなのかもしれないなと思っています。

ですが、私的に言うと、能力がある人にはやっぱり役を頼むと。そういうことを見抜く力を、女性会員でも、普段ゴルフと一緒にやらなくて、一緒に飲みに行かなくても、その人その人の能力を見抜いて、そういう人を取り込んでいく、それが組織として上に立つならば、そういう人を使っていいけるような、そういうことが必要なのかなという風に今ちょっと感じました。ただ、皆さんがそれなりに能力が高いので、十分やっていいける方ばかりなんだなというふうにも実感します。

司会

では、なぜ当地区では女性会員がなかなか増えないのかということを、皆さんにお伺いしたいと思います。

羽田さん

はい。私が所属している大宮南ロータリーは38人中10名が女性会員という恵まれた環境なので、ちょっと答えにはならないかもしれません、卓話に伺つて分かったことは、同じぐらいの金額の年会費を払つても、方やホテルのレストランの食事を例会場でいただけるところと、もう一方でスーパーとかのお弁当を例会で食べるクラブだってあります。どちらに入るかということになると、女性の気持ちからすると、同じ金額払うのだったら高くて美味しい食事をいただけるクラブに入りたいな、と思うのが心情なのではないかなと思います。

司会

三井さんにお伺いしたいと思います。浦和東ロータリークラブにはとても多くの女性の会員がいらっしゃるのですが、どのようにして増やされたのでしょうか。

三井さん

どのように増強されたのかはちょっとわからないのですけれども、よく言われるのは、浦和東ロータリークラブの女性会員は群れを作らなって言われていて。皆さん個々に動いてらっしゃって、その中で活動してることで、人間関係がとてもいい感じであるところが大きな点じゃないかと思います。あと、素晴らしい女性の先輩方もいらっしゃいますし、男性会員の方もほんとに経営者として色々とアドバイスをいただけるところが、やはりロータリーに入って良かったと思える点だと思います。

中川さん

ロータリーの活動自体をまだまだ地域の方が知らないというのが一番大きいのかなと思います。なぜロータリーに入っているのか、ということを皆さんにご理解いただければ、女性ならではができるロータリーの役割というものを伝えられるのかなと期待しております。

山口さん

川口モーニングロータリーは今年度、会員増強に力を入れております。それは女性に限らず、色々な種別を今年度は作りました。例えば、私たちのクラブは土曜の朝8時からの例会ですので、仕事で来られない、あるいは家事とかで来られないという方もいらっしゃいます

ので、会員の枠を作りまして、そちらの方は朝ごはんも食べないので少し会費が安い、というような種別も作りました。また、会員や会員の企業の社員の方も入りやすいように、やはりそちらの方もWebでの参加や、朝ごはんの分をカットした低い会費で入りやすいような種別を作つて会員増強に励んでいるところです。そういう点では、いろんな種別を作り、例会に出にくい会員の人も出やすいような対応をすることで、女性会員も増えてくれるといいなというふうに思つておりますし、実際に家族会員で奥様が入られたことで、会員増強にも繋がりました。ところで、ちょっと気になつてはいるところが以前からあります。岡村ガバナーが所属していらっしゃる川口ロータリークラブさんは、かなり女性の会員が多いということで、どのように増やされたのか、いつもお話を聞きたいなと思っていたんですが、教えて頂けますか。

岡村ガバナー

統計をとつたことがあるのですが、20年で20人、毎年1人ずつ増えていました。ですから、女性会員が辞めないで増えていった、ということですね。で、なんでだろうというのは、一言で言えば、男性会員が受け入れてくれたということなのではないかと思うのです。現在、川口ロータリークラブの理事会のメンバーの4割が女性ですから、非常に女性会員を立てながら、差別もなく何の隔たりもなく活動しています。今、浦和東ロータリークラブさんは女性が群れないと聞きましたが、女性会員も男性会員が受け入れてくれているのだから、私たち女性会員も女子だけで固まらない、そこらへんは守つていくということがある意味良かったのかなというふうには思つています。

司会

橋本さんにお伺いしたいと思います。が所属される大宮南ロータリーは、38人の会員中10名の女性と伺つております。女性が多いクラブとして、何か工夫されていることありますでしょうか。

橋本さん

もちろん会員同士も仲良くなつてますけれども、男性会員の奥様にもいろんな催し物に参加していただいて、私たち女性会員とその男性会員の奥様との交流も深めて楽しくやつてます。女性会員が辞めない、維持できる秘訣だと私は思つております。

司会

では最後に、岡村ガバナーより、女性会員を地区に増やすためにはどのようにしたらいいのか、1年間を通して感じられたこと、それからこれからの方にアドバイスをお願いします。

岡村ガバナー

おそらく、女性会員は、日本の社会の中ではそんなに増えていかないのではないか、と実は思つています。女性会員を会員全体の中の3割に増やすというのは、経済界とか政界でも女性の数は圧倒的に少ないですから、難しいと思います。経済界で活躍する人がいないのに、ロータリークラブだけ女性会員を増やせと、高い年会費で、というのは難しいと想つています。そういう中で、もし女性会員を増やすのならば、今後若いローターアクトとか、そういうところに期待していくしかいないのかなと。ただし、是非男性会員には女性にたくさん役職をあげてほしいと、そういうところで活躍の場をあげて欲しいと思います。それが女性会員を増やす大きな要因になるのではないかというふうに思つています。

司会

本日はありがとうございました。皆様お疲れ様でございました。

一同

ありがとうございました。





未来の扉座談会～地区女性会員座談会～ 後編

司会

皆様、こんにちは。本日は実際のクラブ運営で気が付いたこと、これから行いたいことということで、クラブ会長経験者の皆様、それからこれから会長を予定されている方にご意見をお伺いします。皆様より自己紹介をお願いしたいと思います。江口さんお願いします。

江口さん

鴻巣ロータリークラブから参りました江口真由美と申します。現会長で来年度も会長予定であります。どうぞよろしくお願ひいたします。

山口さん

皆様、こんにちは。川口モーニングロータリークラブ直前会長の山口恵美子と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

羽田さん

大宮南ロータリークラブ次年度会長の羽田しげみと申します。よろしくお願ひいたします。

橋本さん

大宮南ロータリークラブ第43代の会長を務めさせていただきました橋本洋子です。どうぞよろしくお願ひいたします。

佐伯さん

浦和東ロータリークラブから参りました、次次年度会長を予定しておりますと申します。よろしくお願ひします。

岡村ガバナー

本日はよろしくお願ひいたします。今日は、地区もやっと大勢の女性会長が出てくるようになりましたが、実際会長を経験して、またこれから会長をやる抱負として、今日皆さんに本音で色々とお話を聞けたらいいなと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

司会

では、最初の質問です。皆さんのが会長を受けるにあたって苦労されたこと、それから、皆さんが会長を受けるにあたって背中を押したものについてお伺いしたいと思います。江口さん、いかがでしょうか。

江口さん

私が会長を受けましたのは、本来であればまだ先輩でやっていただける方がいたのですが、どうしても受けられないということで、非常に本人的には頼りなかったのですが、今年度ですね、お受けすることになりました。で、来年度もまた同じような理由で会長になる人材がいなくて、お受けすることにいたしました。

山口さん

川口モーニングロータリークラブの場合は、大体順番がこんな感じかなということがあります。指名委員会からの指名もいただきましたので、お引き受けいたしました。引き受けるにあたって大変だったことというのは、男性であるとノミニケーションの中から委員長をお願いすることがあるかと思うのですけれども、女性の場合それが難しい。私の場合はゴルフ同好会に参加していて良かったなと思いました。会長を引き受けたのは、やはり川口モーニングロータリークラブが好きということがありました。

羽田さん

はい。私が受けたのは、11年ロータリークラブにいるので、もうそろそろどうだという先輩たちの声を受けまして。地区ばかりに行ってないで、ちゃんとクラブにも戻ってこいと言われましたので、やることに決めました。

橋本さん

私が受けたのは、大宮南ロータリークラブでは、2年前の会長が2年後の会長を指名するというシステムがありまして、その2年前の会長から頼まれた時に、最初はお断りしたのですけれども、その2年前の会長に大変お世話になったということもあったので、頑張ってやってみよう決心をいたしました。やってみて、全然勉強不足だったのですけれども、皆さん方に助けられてなんとか1年間やってこれたことがいい思い出になっております。

佐伯さん

私も指名委員会の方で、私本人としては、えっ、という感じだったので、パスト会長の皆さんに、なんとかみんなで助けるからおやりなさいと、東クラブは女性の会長がまだ今まで出ていないので、なんとか、ということでお話いただいて。排出した皆さんのが勇気を持って排出してくださったのではないかなと思っております。

司会

岡村ガバナーにお伺いします。川口ロータリークラブ初の女性の会長をお引き受けになるにあたりまして、何に背中を押されたのでしょうか。また、苦労もおありになったかと思います。教えてください。

岡村ガバナー

男性が選んだ女性会長ってこと。佐伯さんもやはり初めての女性会長ということで、選ぶのは男性方なわけですね。そういう意味では、選んでいただいたのだからやるしかないということと、やる以上はやっぱり女だからダメだとか、女性会長はダメだよね、と思われないようにやっぱりしなくちゃいけなというので、そういった意味では非常に大変だったというか、気持ちの上でもすごく大変だったなと思います。ある程度、何か目標を達成しなくちゃいけないという意味では、大変だったなっていう風には思っています。

司会

では、皆様にお伺いしたいと思います。クラブに入られて、女性だったから大変だったというご苦労、それから女性だったから良かったということもおありになったかと思います。それについてお伺いしたいと思います。

江口さん

鴻巣クラブでは、女性だから大変という風に感じたことはないのですけれど、やはり個人的に思うことは、最後飲み会とかになった時に、どこまでお付き合いすればいいのかなというのは、ちょっといつも感じるところです。

山口さん

そうですね。同じように、やっぱり夜のお付き合いという、夜間例会の時に最後までついていくというわけにはいかないので、懇親が深められてないのではないかというふうに感じる時もありました。ただ、自分が会長だった時には、本当に皆さんに支えてくれて色々なことが提案され、例えば「マイキヤップ御朱印帳」の発案もありました。マイキヤップを知り合いを広めることによって奉仕の機会とすることの具現化として、御朱印帳を持ちながらマイキヤップに行こうという企画です。その他に、会員増強維持委員会で毎月増強イベントを行いました。趣旨がしっかりとしていたら新しいことにはどんどんチャレンジして欲しいなと思いましたし、その責任は自分で取ればいいんだという風に思って会長職を務めていました。本当に色々なことをみんなと一緒にでき、とても楽しい経験でした。ただ、女性会員としてという点では、年齢が高い人の言葉が女性にとって傷つくものであったり、ちょっと嫌だなと思うこともあります。そういう点では、改善しようという機運も出でていて、女性会員がいるから人権を大切にすると、ハラスメントをなくすということに会員が気づいたのではないかと感じているところです。

羽田さん

私はまだ会長はこれからなので、会長としてはよくわかりませんが、地区に出ていただいて、クラブから出していただいたので、それを糧に頑張っていこうかなと思っていますが。女性として、やはり1番最初に思ったのは、入会して3年目4年目ぐらいですかね、幹事を受けた時に、当クラブは奨学生を受け入れていたんですが、その奨学生が、宗教上の問題で男性と手を繋げなかったのですが、ロータリーソングの「手と手を繋いで」という歌の時には男性会員と手を繋げないとか、そばに寄れないとか、一緒に写真に写ってはいけない、ということがあつた時に、私が入ることによって、女性が隣に写っていれば写真もOKとか、手をつなげるとかいうことがあって、女性がやっぱりクラブには必要なんだなというのを感じました。あとは、大宮南クラブは募金が得意なのですが、募金の時も、男性のメンバーだけが募金をしていても、やはりちょっと怪しい団体かななんて思われちゃうことが多いと思うのですが、そこに女性メンバーが入ると、和やかになるというのと、あと、そこに少年団とかが加わって、子供たちが加わってもらう時に、子供たち、奨学生、地元の子供たちに加わってもらう時にも、やはり女性のメンバーが何人かいると、場が和んで募金も進むんだなということはつくづく感じています。

橋本さん

私が会長を受けた時は、何年間か私の前は女性の会長がいなかつたので、久しぶりに女性の会長として受けたので、女性だからといっ

て、なんかダメだとか言われたくないっていう思いがちょっと強すぎて、気負ってしまったところがありました。でも、会長の1年間は、特に幹事にも助けられたりしてうまくやっていけたので、女性だからと気負ってしまったのはちょっと間違いだったかなと思って、もっと自然体で頑張ってやっても良かったなと、今は思っております。

佐伯さん

今、浦和東クラブでは16名女性が在籍しているのですが、男女の差なく、委員長にもつけていただけますし、活躍の場を与えていただいていると思っています。私には今そういう悩みはないのですが、世代もちょっとまちまちになってきて、例えばお子さんがいる方、介護を抱えていらっしゃる方、そういう人生の局面でどうしても活躍が厳しくなるような場合もあると思うんですね。そういう時に副委員長と協力して委員会活動が遂行できるとか、そういう理解も若干必要なではないかなという風に感じています。

司会

では最後の質問です。地区の方針としまして、次の年度も会員を増やすということが大きな目標になっていると聞いております。江口さんにお伺いします。どのようにして、鴻巣ロータリークラブに女性含めて会員を増やしていくとお考えでしょうか。

江口さん

今うちのクラブは21名になってしまったので、やはりかなり増強をしないとクラブとしても運営が厳しくなりますので、多くの会員のかたに入っただけたる様に、入会申込書をそれこそ折り曲げた封筒の中に入れて持ち歩き、皆さんに配っていくかなって思っています。で、今、女性会員で例会場に来ているのが私しかいないので、女性会員をなんとか増やしたいなと思っています。

山口さん

川口モーニングロータリークラブは次年度創立40周年を迎えます。そこで、すでに、今年度の会長、会長エレクト、会長ノミニーで、3年計画を見据えて戦略計画の見直しを行いました。の中では、単年度の行動計画も明確にしてます。やはりうちのクラブのそれが自慢かなと思っておりますし、今年度、クラブ活性化委員長を務めている立場ですので、誇れるクラブだなと思っています。行動計画では、やはり会員増強には力を入れておりますので、1人5人には声をかけるということも盛り込まれています。また、参加しやすい、例えばフットゴルフなどのイベントにも力を入れていこうとしています。さらに、地域に密着した奉仕を行い、地域での認知度を高めながら会員増強していくと考えております。個人的には女性会員が2人ですので、女性の会員が増えるといいなと思っています。

羽田さん

スリーアイズローリングプランということで、3年間かけて、うちのクラブでは50周年に50名の会員をということで、去年、今年度は会長が畑を耕してくれました。次年度は私が種をまきましょう、その次に花が咲くのは、大輪が咲くかどうかというのは、私の努力次第なので、まずは入会申込書をあちこちに配りまくろうと思っているのとですね、ロータリーを知らない人が多い、認知度が低いということが、今年1年かけて会員増強部門委員長をやらせていただいて、本当によくわかりましたので、できればどこでもロータリーのブースを作つてほし

いという風に思っています。例えば募金の時でもロータリーということが皆さんにわかるように旗を立てていくとか、お祭りの時でもロータリーというはエンドボリオだということを出していくとか、いろいろなことで、ロータリーを知っていただくなっていることが最初の1歩かなと思っているので、頑張っていきたいなと思っています。

羽田さん

あと、もちろん会員を増やすことも大事なのですけれども、維持するということもかなり重要だと思うのですね。で、維持するためには、紹介した方がもし辞めたいという場合、その紹介者がやはりその人に親身になって話を聞いてあげて、なんとかクラブに引き止めるよう努力していただきたいと思います。また、例会においても、新しい会員とかそういう方が寂しい思いしないように周りで気を遣って、是非とも一旦クラブに入っただけたる方に関しては維持していくように努めることも大事かなと私は思っております。

佐伯さん

浦和東クラブのクラブビジョンには、「優れたワンハンドレットメンバークラブを目指します」というのがあるので、常に100名の会員を維持するためにはどんなふうにしたらいいのかということを、常に念頭に置いて考えなければいけないのかなと思っています。昨年度、今年度は多分7名純増で女性もその中には含まれます。それが維持できるような、また今度は優れたメンバーを探し続けなきゃいけないということなのですけれども、まずは自分たちが楽しむ、クラブの奉仕活動も含めて楽しむということが1番増強のツールかなと思っています。浦和東クラブに行ったら楽しいよ、というのが地域で、そして色々なところで聞こえるような活動ができたらなと思っています。

司会

では最後に岡村ガバナーにお伺いします。クラブに新しい会員や女性会員を受け入れる、そういうクラブに対して、岡村ガバナーからアドバイスあるいはお願いしたいことはありますでしょうか。

岡村ガバナー

国際ロータリーは2030年度までに女性会員を全会員の3割に、と目指していますが、この3割というはある意味根拠がある数字で、例えば10人いると、3人が女性じゃないと、そこに3割の女性がいないと偏った意見になってしまふ、つまり偏った奉仕事業になってしまうというような意味で3割ということです。それはある意味社会学的に証明されているということで、1人だと孤独に苛まれる、2人だとマイナーな意見だと、3割いて、つまり10人のうち3人いて初めてその属性の人の意見が反映されるという社会学的な根拠に基づいています。ですから、やっぱりクラブに女性1人です、2人ですというのは、非常にそのクラブの中で孤独感があるということを是非男性の会員は分かっていただきたい。そういう意味で、女性会員を増やさなくちゃいけない。その意味で、女性会員の意見も反映できるような奉仕事業をやっていかないと、結局ロータリーは先細りしてしまうということを皆さんに自覚してもらえるとありがたいなと思っています。

司会

本日は、皆様お疲れ様でございました。

一同

ありがとうございました。ご苦労様でした。



岡村睦美ガバナー 埼玉新聞に記事が掲載されました。

6月18日の埼玉新聞に岡村睦美ガバナーの記事が掲載されました。

埼玉のRCで初の女性ガバナー



「もっともっと青年や女性が参加してほしい」と話す岡村睦美さん=川口駅前

岡村睦美さんに聞く

「女性参加の拡大が課題」

会員総数約2280人のうち、女性は9・4%の220人だ。

◆ローターアクト

と訴える。

一方、女性参加も世界標準から懸け離れている。RCは1905年に米シカゴで地域の経済人らによる奉仕活動として発足。その後世界に広がつたものの、長い間女性は入会できない規約だった。

80年に米国の最高裁判所はシカゴの女性の訴えを受けて女性の入会を認めないのは憲法違反という判断を出した。この判決で世界で女性の入会が可能になった。世界で女性のロータリアンが活躍する中で、日本はその波に乗りてい

ない」と言う。

女性会員は世界平均で27%。印度やブラジルは5割台。韓国27%、台湾30%、米国は35%。一方で、日本は7・4%と格段に低い。埼玉2770地区でも最近時点では、同地区的ローターアクトは本年度に82人から一挙に246人に増えた。戸田中央看護専門学校の生徒たち123人が一挙に新会員として参加してくれたのはうれしかったという。

【メモ】国際RC日本事務局によると、最近のRCは515カ国・地域で3万6671団体が活動する。日本では34地区・約2200団体。日本で初の女性ガバナーは2007-08年度2630地区(岐阜・三重)の田中稔子氏。全国34地区で24-25年度の女性ガバナーは岡村さんら4人(北海道、神奈川、東京、埼玉)。26年の女性ガバナーは2630地区(岐阜・三重)のみといつ。

◆世界標準

岡村さんによると年会費はアメリカでは10万~13万円、韓国は15万円ぐら

い。「高い会費が若い人や女性た

りの参加を阻む壁になつていて」

万円ぐらい。日本は約30万円ぐら

い。「高い会費が若い人や女性た

りの参加を阻む壁になつていて」

11月にさいたま市の大宮ソニック

ビル東側の鎧塚公園で開いたフードパントリ。家庭で余った食品を持ち寄る困難家庭支援の活動で約千人が参加した。主催して支えたのはローターアクトの青年たち250人だった。

春日部ロータリークラブ創立 60 周年

7年5月10日 パレスホテル大宮

春日部ロータリークラブ創立60周年記念式典並びに祝賀会 RI3501地区中壢扶輪社姉妹クラブ第15次再締結調印式

当日は、春日部市長岩谷一弘様をはじめといたします御来賓の皆様。ガバナー岡村睦美様をはじめといたします地区役員の皆様。スポンサークラブであります大宮RC会長内藤考三様。姉妹クラブの台湾中壢扶輪社社長邱靖晏様、メンバー、家族の皆様。友好クラブの秋田横手南RC会長奥山慎吾様、メンバーの皆様。そして近隣、友好クラブの皆様。多くの方々に、御臨席賜り盛会に開催することができました。

今まで、お世話になりました皆様に感謝するとともに、コロナ禍中に企画した地域に根ざす新たな事業を紹介することができました。これから、新たなステージへ進む春日部ロータリークラブを今後とも宜しくお願ひいたします。



周年記念事業

- ・春日部市立柏壁小学校けん玉144本寄贈
- ・小学生“未来の春日部”ポスター展
- ・小学生3×3バスケットボール大会
- ・ロータリー財団への寄付
- ・米山記念奨学会への寄付



戸田ロータリークラブ 献血募集活動

2025年5月28日



戸田ロータリークラブは社会奉仕委員会の看板的な事業として、日本赤十字の協力のもとに53年に亘り献血募集活動を実施してきている。

それも半端な事業でなく、一日一か所で500名を目標として継続してきている。

この事業に対して、厚生労働大臣、日本赤十字社社長様から感謝状、表彰を受けている。当クラブの五十周年記念事業として一日一か所1000人献血の計画を立て、クラブ全員の努力により、見事達成をした実績がある。

今年54回目を5月28日に実施、岡村ガバナーも激励応援に駆けつけて頂き、コロナ以降厳しい環境が続いているが455名の実績をあげる事が出来た。

何よりも大切なことは、この事業に対しクラブ員全員が一致団結して汗を流すこと、当クラブの最長老(98歳)飯島会員が先頭に立って率先実施、この一致団結が「自分のクラブは素晴らしいクラブ」だと皆が認識している原点だと思う。





ロータリー財団



田中 章夫
(川口南)
令和7年6月6日

橋本 和久
(大宮)
令和7年4月25日

熊井 初雄
(鳩ヶ谷)
令和7年3月26日

斎藤 守毅
(大宮)
令和7年2月28日

鮎島 一弘
(大宮シティ)
令和7年2月25日

江口 正史
(川口南)
令和7年4月8日

飯野 浩一
(蓮田)
令和7年2月27日

ロータリー財団



橋本 洋子
(大宮南)
令和7年5月9日

島田 昌明
(川口むさし野)
令和7年4月2日

高石 正
(蕨)
令和7年1月28日

須田 清
(川口北)
令和7年4月22日

飯嶋 隆
(三郷)
令和7年2月12日

内山 泰成
(大宮西)
令和6年12月26日

佃 茂明
(浦和)
令和6年12月27日

ロータリー財団



川島 健
(川口西)
令和7年5月20日

高松 良典
(蕨)
令和7年1月28日

吉田 正臣
(浦和)
令和7年3月28日

有明 京子
(三郷)
令和7年2月12日

川田 康雄
(三郷)
令和7年2月12日

村上 博康
(鳩ヶ谷)
令和7年4月25日

上田 治男
(蕨)
令和7年1月28日

ロータリー財団



竹ノ谷 裕子
(川口南)
令和7年4月16日

小板橋 好
(桶川)
令和7年5月14日

豊田 茂雄
(三郷)
令和7年2月12日

湯尾 茂夫
(桶川イブニング)
令和7年1月21日

但野 剛
(三郷)
令和7年2月12日

佐藤 泰博
(三郷)
令和7年2月12日

宮田 真人
(三郷)
令和7年2月12日

ロータリー財団



田邊 利幸
(上尾西)
令和7年3月31日

吉村 総一
(越谷)
令和7年5月29日

中川 純一
(川口南)
令和7年5月23日

新藤 誠子
(蕨)
令和7年1月28日

野見山 哲二
(越谷)
令和7年5月29日

佐々木 幸太郎
(川口西)
令和7年5月20日

小林 篤
(岩槻)
令和7年4月24日



ロータリー財団



伊藤 正
(三郷)
令和7年2月12日



齊藤 哲也
(蕨)
令和7年1月28日



風間 健
(蕨)
令和7年1月28日



村上 武白
(浦和)
令和6年11月29日



金子 剛
(浦和)
令和6年12月27日



桃木 俊郎
(越谷)
令和7年6月24日



浦和ダイヤモンドRC
クラブ寄付

米山奨学会



竹ノ谷 光美
(川口南)
令和7年3月25日



佐伯 鋼兵
(浦和南)
令和6年12月27日



金子 弘
(さいたま中央)
令和7年3月7日



櫻井 義久
(大宮)
令和7年4月7日



宇田川 初夫
(三郷)
令和7年2月5日



饗庭 英彦
(浦和南)
令和6年12月27日



藤嶋 剛史
(大宮西)
令和6年12月26日

米山奨学会



田中 康之
(大宮)
令和7年5月28日



芝田 勝孝
(さいたま中央)
令和7年3月7日



福田 和子
(大宮西)
令和6年12月26日



星野 晃輝
(浦和南)
令和6年12月27日



吉田 孝徳
(浦和)
令和6年12月27日



高橋 和彦
(越谷)
令和7年6月24日



湯尾 茂夫
(桶川イブニング)
令和7年1月21日

米山奨学会



井田 人志
(大宮西)
令和6年12月26日



小山 陽一郎
(浦和)
令和6年12月27日



野並 伸行
(浦和南)
令和6年12月27日



小島 徹
(大宮西)
令和6年12月26日



横溝 一樹
(大宮西)
令和6年12月26日



松谷 厚雄
(浦和)
令和6年12月27日



田中 政司
(蓮田)
令和7年2月27日

米山奨学会



田邊 好昭
(浦和ダイヤモンド)
令和6年12月27日



青木 俊哉
(浦和)
令和6年12月27日



永島 信之
(越谷)
令和7年3月1日



関根 信次
(浦和)
令和6年12月27日



網谷 徹己
(川口)
令和7年3月21日



伏見 晴雄
(蓮田)
令和7年2月27日



大塚 信之介
(浦和南)
令和6年12月27日

米山奨学会



清水 真知子
(浦和ダイヤモンド)
令和6年12月27日

飯渕 昭二
(さいたま中央)
令和7年3月7日

南保 剛
(浦和ダイヤモンド)
令和6年12月27日

志村 佳重
(浦和ダイヤモンド)
令和6年12月27日

高野 哲好
(さいたま中央)
令和7年3月7日

済陽 高穂
(浦和)
令和6年12月27日

内藤 公代
(大宮西)
令和6年12月26日

米山奨学会



広瀬 隆
(浦和ダイヤモンド)
令和6年12月27日

河合 明弘
(さいたま中央)
令和7年3月7日

大澤 弘一
(越谷)
令和7年4月25日

栗原 千亜希
(桶川イブニング)
令和7年1月21日

小泉 儀明
(浦和)
令和6年12月27日

長谷川 功一
(浦和)
令和6年12月27日

小関 範之
(浦和南)
令和6年12月27日

米山奨学会



鈴木 裕行
(さいたま中央)
令和7年3月7日

森田 宏
(桶川)
令和7年5月29日

青木 健志
(桶川イブニング)
令和7年1月21日

鈴木 隆広
(越谷)
令和7年2月26日

田所 宗一朗
(浦和南)
令和7年6月24日

富田 かおり
(浦和南)
令和7年6月24日

松澤 功
(上尾西)
令和7年4月30日

新会員



三上 浩嗣
(さいたま中央)
令和7年3月7日

(株)永生地所
(八潮イブニング)
令和7年5月21日

(有)丸国商事
(大宮西)
令和6年12月26日

桶川イブニングRC
令和7年1月21日

第6回米山功労クラブ
Urawa-Diamond JAPAN
令和7年4月22日

竹ノ谷 裕子
(川口南)
令和7年2月5日入会
ライトハウジング㈱
不動産業

五十嵐 優
(川口南)
令和7年2月5日入会
東京国際知識学院
日本語専門学校

新会員



方 煌輝
(越谷東)
令和7年2月6日入会
F&G(㈱)
事務用品 輸出入貿易

渡邊 大喜
(浦和北)
令和7年2月19日入会
TOKUZO合同会社
福祉

篠宮 武
(浦和北)
令和7年2月19日入会
合同会社グローバル
不動産賃貸業

青木 義枝
(越谷)
令和7年2月25日入会
(㈱)アオキ
建築資材卸売業

井場 さおり
(越谷)
令和6年2月25日入会
三井住友信託銀行㈱越谷支店
信託銀行

藤井 大介
(浦和北東)
令和7年3月1日入会
(有)みらい
貿易商

伊藤 誠一郎
(川口モーニング)
令和7年3月1日入会
(㈱)ナレジステーション
法務・ビジネスサービス

新会員


中村 房生
(大宮西)

令和7年3月3日入会
埼玉県信用金庫大宮西支店
信用金庫

中山 治
(大宮西)

令和7年3月3日入会
㈱三井UFJ銀行大宮支店業大宮駅前支店
銀行業

植田 鐘澄
(大宮西)

令和7年3月3日入会
大東建託㈱さいたま支店
建設業

柳原 和歌子
(大宮西)

令和7年3月3日入会
㈱ハッピーストーリー
教育・学習支援業

井上 雅喜
(越谷北)

令和7年3月5日入会
ボディアンドマイドジム ルアン
スポーツジム

北 英毅
(岩槻)

令和7年3月6日入会
ジフタル生命保険㈱
保険業・生命保険業

平野 大太
(川口)

令和7年3月6日入会
司法書士ひらの事務所
司法書士

新会員


関 有孝
(川口)

令和7年3月6日入会
(有)花ぜんセレモニー
葬祭業

石塚 洋一
(川口モーニング)

令和7年3月8日入会
浦和はやと法律事務所
弁護士

古川 由美
(川口東)

令和7年3月11日入会
社会保険労務士法人アシスト21
学術研究・専門・技術サービス業

藤園 豊

(岩槻)
令和7年3月12日入会
アトリエ一本道
家具什器製作販売

櫻井 義久
(大宮)

令和7年3月26日入会
櫻井税務会計事務所
税理士業

首藤 潤美
(浦和中)

令和7年3月27日入会
八生建設㈱
総合建設業

菅 伸之
(浦和東)

令和7年4月12日入会
茶道教室
茶道教室経営

新会員


北市 哲一
(浦和東)

令和7年4月12日入会
積水ハウス㈱
建設業

中島 直史
(大宮西)

令和7年4月14日入会
㈱フジタ関東支店
総合建設業

佐々木 圭
(大宮西)

令和7年4月14日入会
㈱パレスエンタープライズ
ホテル業

駒月 理人
(春日部)

令和7年4月15日入会
埼玉りそな銀行春日部支店
銀行業

桜 ちかこ
(岩槻)

令和7年4月17日入会
日本クラウン㈱
演歌歌手

橋本 一憲
(戸田西)

令和7年4月17日入会
㈱サイオーネ
ビルメンテナンス

原 博実
(大宮)

令和7年4月23日入会
RB 大宮㈱
プロスポーツ興業

新会員


中田 勇人
(大宮)

令和7年4月23日入会
大和証券㈱大宮支店
証券業

大村 卓未
(大宮)

令和7年4月23日入会
キリンビール㈱都支團支店埼玉支店
製造業

江戸 邦彰
(浦和)

令和7年4月25日入会
SMBC日興証券㈱浦和支店
証券業

持丸 真衣子
(浦和)

令和7年4月25日入会
野村證券㈱浦和支店
証券業

溝原 章
(浦和ダイヤモンド)

令和7年4月25日入会
㈱エム・ゼット
空調設備業

青木 健
(浦和)

令和7年5月9日入会
東京ガス㈱埼玉支社
ガス供給

長谷川 晋
(さいたま新都心)

令和7年5月12日入会
三井住友海上火災保険㈱
火災保険

新会員


尾上 宗章
(大宮西)

令和7年5月12日入会
㈱渡辺塗装工業
建設業

月山 麗
(大宮西)

令和7年5月12日入会
㈱月山架設工業
建設業

才間 朋子
(大宮中央)

令和7年5月13日入会
総合技研㈱
技術サービス業

松ヶ野 仁志
(大宮)

令和7年5月14日入会
SMBC日興証券㈱大宮支店
証券業

藤田 洋平
(大宮)

令和7年5月14日入会
埼玉りそな銀行大宮支店
銀行業

山崎 淳一郎
(春日部南)

令和7年5月14日入会
㈱マルリ
海産物販売

中川 公夫
(鳩ヶ谷)

令和7年5月15日入会
㈱フロアーサポート
左官・土木工事



新会員



川村 孝太
(鳩ヶ谷)
令和7年5月15日入会
アース登記測量事務所
土地家屋調査士

佐々木 一真
(越谷)
令和7年5月20日入会
野村證券(株)越谷支店
証券業

石井 順一
(越谷)
令和7年5月20日入会
大和ハウス工業株埼玉東支店
総合建設業

宮代 貴仁
(浦和)
令和7年5月23日入会
大和証券(株)浦和支店
証券業

松崎 健二
(大宮シティ)
令和7年5月26日入会
元 STAR リアルティ(株)
不動産鑑定業

小島 龍斗
(浦和北東)
令和7年5月27日入会
A-TRY(株)
洋服仕立業

黒田 健司
(鴻巣水曜)
令和7年5月29日入会
群馬銀行鴻巣支店
地方銀行

新会員



蓮見 裕
(浦和南)
令和7年6月2日入会
武藏野銀行南浦和支店
銀行業

磯邊 美香
(浦和南)
令和7年6月2日入会
リアルホーム(株)
不動産業

中村 麗
(大宮中央)
令和7年6月3日入会
(有)麗
飲食業

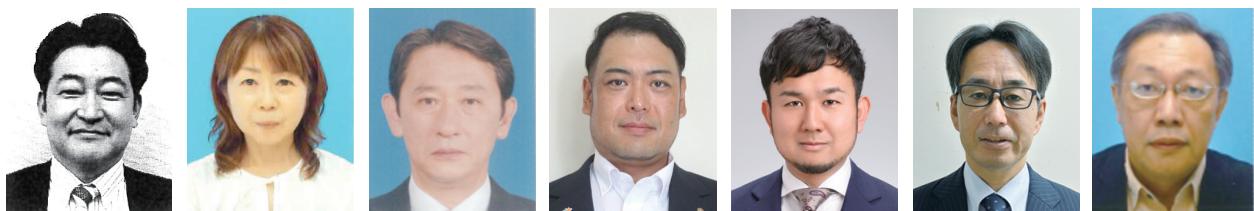
坂本 仁
(大宮中央)
令和7年6月3日入会
ツカイ(株)
人材紹介

渡邊 香織
(大宮中央)
令和7年6月3日入会
idea(株)
映像制作

中村 朝啓
(越谷)
令和7年6月3日入会
野村證券(株)越谷支店
生命保険業

新井 賢彦
(川口)
令和7年6月5日入会
川口信用金庫本店営業部
信用金庫

新会員



藤本 達也
(川口)
令和7年6月5日入会
埼玉りそな銀行川口支店
銀行業

北村 陽子
(大宮)
令和7年6月11日入会
さきぎ社会保険労務士事務所
社会保険労務士

薩島 一策
(浦和東)
令和7年6月12日入会
株 薩島電機
電気及び電子業

能重 裕介
(岩槻)
令和7年6月12日入会
(株)清櫻堂
飲食業他

小山 雅史
(上尾)
令和7年6月12日入会
(株)コヤマ
液化石油ガス卸売業

河野 哲也
(浦和)
令和7年6月13日入会
埼玉りそな銀行浦和中央支店
都市銀行

藤原 智明
(浦和)
令和7年6月13日入会
明治安田生命浦和支社
生命保険

お詫び
月信三月号に掲載いたしました
なりましたところ、確認不足により遅く
ました。大変失礼いたしました。

新会員



小室 雄充
(鳩ヶ谷)
令和7年1月16日入会
宗教法人 地藏院
仏教

訃報

謹んでお悔やみ申し上げます。



田村 亮夫
(川口モーニング)
令和6年12月16日
ご逝去
享年 88歳



池田 昭子
(川口西)
令和7年1月11日
ご逝去
享年 87歳



千葉 義晴
(吉川中央)
令和7年2月11日
ご逝去
享年 88歳



斎藤 實
(大宮西)
令和7年2月26日
ご逝去
享年 78歳



杉田 政男
(岩槻東)
令和7年3月24日
ご逝去
享年 96歳

古澤 建治
(浦和北)
令和7年3月27日
ご逝去
享年 77歳

志水 一雄
(岩槻)
令和7年3月31日
ご逝去
享年 78歳

山田 宗一
(大宮東)
令和7年4月15日
ご逝去
享年 81歳

川田 康雄
(三郷)
令和7年5月12日
ご逝去
享年 85歳

山本 清次
(春日部)
令和7年5月16日
ご逝去
享年 97歳

工藤 征彦
(越谷北)
令和7年6月19日
ご逝去
享年 45歳



1 奨学生の第一歩 全国各地でオリエンテーション開催

新学期の始まりとともに、新たな米山奨学生たちが第一歩を踏み出しました。全国各地で実施されているオリエンテーションの中から、今回は第2800地区(山形)の様子をご紹介します。



4月5日、山形市内のホテルにて、「2025学年度米山奨学生オリエンテーション・カウンセラーオン・ミーティング」が開催されました。出席した奨学生たちは、同地区の芳賀康雄ガバナーの挨拶の後、確約書などの書類に署名をし、正式に米山奨学生となりました。「米山奨学生・カウンセラースピーチ」では、奨学生たちが緊張しながらも自

らの夢、奨学生となった喜び、今後の目標を発表。また、新任のカウンセラーやから、「他のロータリー会員と協力しながら、温かく、そして前向きな気持ちで奨学生たちを支えていきたい」といった意気込みが述べられました。

最後に同地区米山学友会について、会長のドアン・ミン・ハオさん(2022-23/山形西RC)から活動を紹介。卒業後のつながりの大切さなどについて、先輩としての経験を伝えました。全体を通じて奨学生とロータリー会員が和やかに交流を深め、心温まる時間となったそうです。

2 博士号取得状況

2024-25学年度に博士号取得の報告があった奨学生は34人、学友は22人、これまでの累計は4,205人となりました(5月13日現在)。

米山記念奨学会では、博士号を取得した奨学生・学友へお祝いの腕時計を贈呈しています。裏ぶたに氏名を刻印した世界に一つだけの腕時計です。クラブ会員の皆さんに成果を報告するため、原則としてクラブ例会にて贈呈していただいており、それが学友との交流再開のきっかけになった、という報告をいただくことがあります。博士号を取得した奨学生・学友がいましたら、当財団事務局へご報告ください。



文字盤の裏に氏名を刻印

申請方法

- 奨学期間終了後の取得でも対象です
- お届け先は、原則として世話クラブです(納品まで約2~3週間かかります)

「学位記の写し」もしくは「学位取得証明書」と、当財団書式「博士号取得報告書」の2点を世話クラブから米山奨学会へメールやFAXなどで送信(FAX:03-3578-8281 / email: alumni@rotary-yoneyama.or.jp)

3 寄付金速報 ー 今年度も残り1カ月半 ー

前年同期比

-8.3%

普 -1.2% 特 -11.5%

4月末までの寄付金は前年同期と比べて8.3%減(普通寄付金:1.2%減、特別寄付金:11.5%減)、約1億560万円の減少とな

りました。4月の寄付額では過去5年間で最も多くのご寄付をいただきました。また、創立記念寄付として15のクラブから計205万円の特別寄付があり、回復の兆しも見えています。今年度もあと1カ月半、引き続き当事業へご支援を賜りますようよろしくお願ひいたします。

4 | 自らの声で感謝と想いを伝える機会に

4月29日、第2790地区クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナーが千葉市内で開催され、同地区学友会副会長のグエン・ビン・ヌーさん(2023-25/成田空港南RC)と現役奨学生のイトウエン・ビアさん(2024-26/千葉南RC)が出席しました。ロータリー会員に向けて、米山奨学生・学友として得られた学び、気づき、そして学友会活動の意義や魅力を紹介する目的で出席したそうです。



挨拶をするビアさん(中央)とヌーさん(右)

当日は、実体験に基づき奨学生時代の経験を発表。また、学友会活動の紹介として、2025年1月にベトナム・ダクラク省にあるレホンフオン小学校で行った「IT教室支援プロジェクト」について紹介。ヌーさんの世話クラブである成田空港南RCの協力を受け、現地の子どもたちの学習環境の改善を目的に、コンピューターやモニターなどを寄贈した奉仕活動とその成



ベトナムの小学校へモニターを寄贈

果を発表しました。その他、学友会活動を通して得た経験や学びを後輩たちに伝え、ロータリーの奉仕の精神を未来へつなげていきたい、という想いを語りました。発表後、「自分も留学の経験があって、当時の気持ちを思い出しました」

「本当に頑張っていますね」といった声をもらい、直接ロータリー会員に自分の声で感謝や想いを伝えるすばらしい機会になったそうです。

ヌーさんは、「会員の皆さんからもお話を聞くことができ、互いの理解が深まりました。国籍や世代が違っても、『誰かのために行動したい』という気持ちは共通していて、大きな励みになりました。こうした機会を通じて、米山学友会とロータリー会員のつながりが深まり、米山奨学事業の価値がさらに高まっていく信じています」と語りました。

第2660地区米山学友会 創立40周年記念式典 「米山絆の歩みを振り返り、未来を築く」 開催のご案内

設立40周年記念式典&総会が開催されます

詳細・申込は[こちら](#)

■記念式典&総会

2025年7月6日(日) 16:00~20:30

シェラトン都ホテル大阪 4階浪速の間

■EXPO2025大阪・関西万博 米山ツアー

2025年7月7日(月)



※申込期限は6月20日(金)まで※

米山学友の顔

よねやま親善大使をお招きください

活躍する米山学友の代表として、当事業のあらましや自身の活動、ロータリーと交流し、学んだ経験が人生においてどのように生かされているか等をお話します。地区大会や米山セミナー、奨学生のオリエンテーションや歓送会等でのスピーチに、ぜひお招きください。7月から第6代よねやま親善大使が始動します。

詳細は[こちら](#)





第1地域 ロータリー公共イメージコーディネーター 寺嶋 哲生（柏 RC）

2007年に策定された RI 戦略計画において、3つの戦略的優先事項が公表されました。即ち、①クラブのサポートと強化、②人道的奉仕の重点化と増加、③公共イメージと認知度の向上です。永年、職業倫理の実践がロータリーにおける最も重要な目標と考え、かつ、決議 23-34・(6)・(F)に謳われた文言を「陰徳の美」として捉えて来た日本のロータリアンには、俄かには受け入れがたい方針転換であったかも知れません。しかし、1905年の設立から順調に拡大・成長して来たロータリーが、1980 年代に入ってからの会員数が横ばいとなり、加えて、先進国の会員数はむしろ減少に転じた現状を見れば、「ロータリーは時代に適応しなければならない」とする 2015 年 10 月の理事会決定を待つまでもなく、当然に受け入れるべきチャレンジであったものを感じます。これはロータリーに限った事ではなく、刻々と変化する社会のニーズに対応すべく日々改善を継続する企業経営者であれば、皮膚感覚で理解している事柄であります。



私は、「公共イメージの向上」とは、「信用を培う事」であると思います。例えばレッド・クロス、このエンブレムを見れば世界中の誰もが「赤十字」のエンブレムである事を認識している。そしてこのエンブレムを見れば、例え戦場で銃撃を繰り返す兵士であっても銃撃の手を止める。何故なら兵士達は、このエンブレムを掲げている人達は、敵味方関係なく自分達の命を救ってくれる人達である事を理解しているからです。では、私達が付けているロータリーのエンブレムは如何でありますか？RI の呼ぶ「誇りのシンボル」を見れば、世界中の方々がロータリーのエンブレムである事を認識し、これを掲げるロータリアンは世界平和を希求し、地域社会・国際社会・青少年に手を差し伸べようとする意志を持つ人達である、そう理解して下さるでしょうか。ロータリーもそうなろう、RI の戦略計画は私達ロータリアンにそんな提案をしているのである、私はそう理解しております。

「One Profits Most Who Serves Best」、私達日本人は古来からこれと全く同じ感性を持っております。即ち、「情けは人の為ならず、巡り巡って己が為」です。私達の行う「Take action」は、目的を共有して互いに協力することで会員同士の友情を育み、他に感謝される事により私達の心が充足し、ロータリー会員とロータリーに対する社会からの信用を築き、培われた信用は私達の精神的・経済的プロフィットなる。私は、これがロータリーの掲げる不変の哲学である、そう理解しております。



地域リーダーになろう

第2地域 ロータリー会員増強コーディネーター補佐 辻 正敏 (津RC)

「重要なお知らせ:ロータリコーディネーターの新しい名称について」が届きました。今までの名称に「会員増強」が加わり、「ロータリー会員増強コーディネーター」となるそうです。これはコーディネーターの専門性をより明確に表し、会員がよりよく理解できるように、そして会員増強や参加促進に取り組む貢献を表し、他の地域リーダーの役割名との整合性をとるものとあります。確かに地域リーダーになった者にはその役割はわかりますが、クラブ会員にはわかりにくかったことも事実でした。今回の名称変更でより明確にその役割が会員増強とクラブ新設、会員基盤の強化であることがわかります。

私が入会したのは1980年4月でした。もう45年以上の時間が流れました。当時は怖い怖い先輩に何をしたらよいのかと聞くと、「真面目に仕事して、得た利益から出来る寄付すればよい。ただそれだけじゃ」との答えでした。時間が経過しクラブの中堅になり、幹事も会長も経験させていただきました。今度は聞かれる立場になりました。昔私がいただいた先輩の言葉をそのまま返す訳にはいきません。例会の大切さ、財団寄付がどのように役立っているか、つまりロータリーの素晴らしさを自分なりに話してきました。今も「四つのテスト」の素晴らしさ、「寛容の心」の尊さは話します。ところが大切だと言ってきた例会は月2回でよい、メークアップは年度内でよいなど今までと異なる方向に変化していきました。そう、時代は動き、変わっているのです。

そして2022-23年度から私のコーディネーター補佐が始まりました。最初は何が何だか、何をすればいいのかわからず手探り状態でした。野口さんの指示がなければ何もできませんでした。そこへ3-year rolling goals。国際ロータリーも地域リーダーと一緒に作り上げていこうとしているようです。国際ロータリーは変化に敏感です。会員増強を真剣に考えないと会勢を保てません。やはり数は勢いに繋がります。何とかしてロータリーを世界一の奉仕者の団体にしたいのです。変化を味方につけて。私も賛成です。自分が入会している団体が胸の張れる、誇りの持てるものにと考えます。最近よく国際ロータリーに対し否定的な発言を耳にすることがあります。自分の入っているロータリーを悪く言うのは言語道断です。一人でも多くの会員が、地域リーダーを今まで以上に理解し、できればその役職に就き活動すれば、さらにロータリーは未来を見据えた前向きな団体として会員数やクラブは自然に増加していくのではと感じます。

皆さん、地域リーダーになりましょう。クラブにだけ居たのでは変化を感じることは出来ません。一人でも多くの若い会員が地域リーダーになり、ロータリーの中での変化を感じて欲しいものです。3年の任期を全うしての退任に際し、普通なら出来ない勉強をさせていただきましたことに感謝です。ありがとうございました。





第3地域 恒久基金/大口寄付アドバイザー 末長 範彦（岡山RC）

第3地域の恒久基金・大口寄付アドバイザーを仰せつかっております末長と申します。

「恒久基金」「大口寄付」と聞くと、誠に残念なことに、大多数の皆さまができれば避けて通りたいと思われていることでしょう。ご存じのように、国際ロータリーは奉仕に軸足を置き、なかでもポリオ根絶を最優先項目とするほか、今年2月にはトルコに新「平和センター」を創設して平和に貢献する人材を養成し、世界各地で頻発する災害の復旧を支援し、また毎年選定する「大規模プログラム補助金」等の「人道奉仕7重点項目」に奉仕実践しています。そして世界中のクラブと地区に DDF を活用する奉仕事業を推奨しており、究極的には「世界平和」の実現を目指しています。



これらの奉仕実践には皆さまからの温かいご支援が不可欠であり、私たち E/MGA は一件 2万 5000 ドル(日本では 1 万ドル)以上の大口寄付をお願いしております。ぜひ、援助を必要としている人たちのことを見聞きした時や、ロータリーや事業でのお役職にご就任またはご退任を記念して、ご家族のお祝いやご入学・ご卒業等の人生の節目を迎えられた時にも、奉仕の理念を実現すべくロータリー財団(TRF)へのご支援をお願いいたしたいと存じます。

また、「恒久基金」は元本を据え置きしてその運用益だけを奉仕に充てることで、奉仕基盤を維持しながら奉仕が継続実施できる基金制度です。TRF は 2025 年までに 20 億 2500 万ドルの残高達成を目標としていますが、現在のところあと少し未達となっています。恒久基金には、寄付者のご尊名等を冠して個別に運用結果を報告する「冠名基金」制度があります。これを活用してあなた様およびご家族のお名前や寄付目的等を TRF に登録して、皆さまのご厚情溢れるご支援・ご貢献を永久に記録に残されることをお奨めします。

人間には、自己の利益を優先する反面、他の恵まれない人々を援助したい気持ちもあり、ロータリーにはこれらの相反する気持ちを調整する機能があるとよく言われます。役目柄、重ねてお願いいたしますが、援助を必要としている多くの人たちに効果的な奉仕を実践するために、国際ロータリーのロータリー財団へ、どうぞ心温まるご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

旅するアート



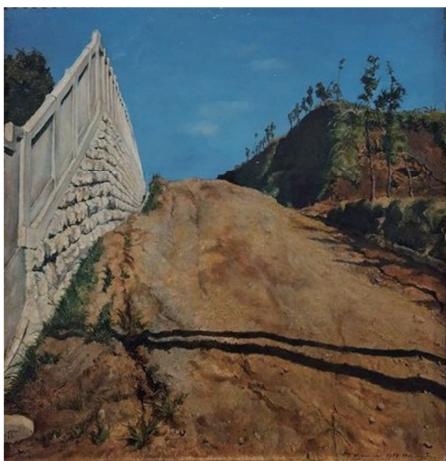
第5回 重要文化財 岸田劉生《道路と土手と堀(切通之写生)》

山下 隆史(やました たかふみ)
教育出版株式会社
教育研究所所長

～自然と文明の美しきせめぎ合い～

“花の町 坂の町”商店会のキャッチフレーズ通り、作品に描かれた渋谷区・参宮橋駅周辺は、現在も起伏に富んでいる。劉生は住まい近くの見慣れた風景を正方形に凝縮させた。どのような思いを込めたのか、まずは題名から探ってみる。

「道路」は関東ローム層の赤土、右側の「土手」は幼稚園建設のために拓かれようとしている。「堀」は土佐・山内豊景侯爵邸の白壁。これらは、視線を奥へ奥へと先に広がる青空へ導く。全体的には強い力が満ち過ぎ、勢いがぶつかり合ってどこか不安定にさえ見える。それは、各々の消失点が食い違うことや、隆起した道路の左上端がまくれ上がってしまっていることにもあろう。自身もこう振り返る。「自然の質量そのものにぶつかってみたい要求が目覚めた」「むき出しの土がもつエネルギーを捉えたかった」と。



▲岸田劉生《道路と土手と堀(切通之写生)》
1915年、56cm×53cm、キャンバスに油彩、東京国立近代美術館

一方、気になるものがもう一つ残る。それは道路手前を堂々と左右に横切る二本の黒い線。これは何で、どのような意味があるのか？

2021年。練馬区立美術館において「電線絵画」という意欲的な企画展が開催された。現代では景観を乱すと嫌われるものの電柱であるが、明治・大正期においては文化文明の象徴で、絵師たちはこぞって天へ伸びゆく“未来”を描いた。劉生もその一人であった。

雄弁な彼は、38年間の短い人生に多くの著書も残した。要諦をうがつ言葉の中に、美術とは“内なる美”的表現であり、人工(芸術や開発)をもって、自然の形や人間の心を美しい色や線に変えること」とある。誤解を恐れず簡略にすると、同じ対象物を観ても、人によって美しさの捉え方は違うし、同一人物であったとしても昨日と今日とでは観え方が違う。つまり、心のちようであり、感じ捉えた内側をどのように表現・変化させるかが肝要だと説いた。

山野が切り拓かれ、文明が開化し、生活が便利になっていく。この頃の人々はそれを喜んで受け入れ、誇りに思う時代であった。劉生はせめぎ合い、融合し合って隆盛を極めようとする“内なる美”を、たくましい大地の姿と電柱の影に落とし込んだ。

新しい時代の到来を歓迎していた劉生だが、皮肉なことに本作を描いてまもなく肺結核を患い湘南鵠沼海岸へと転居。外へ写生に出ることもままならず、室内での創作に励むようになる。ゆくりなくとも、それが自身もう一つの重文「麗子像」へと結晶していく。

※重要文化財の洋画は20点あり、劉生は2作品の指定を受けている。ちなみに明治以降の近代絵画に国宝の作品はない(文化庁データベース2025年4月調べ)。

作品の舞台となった東京都渋谷区代々木にある
「切通しの坂」(筆者撮影)▼►



<参考文献>

- ・岸田劉生『美の本体』(角川書店)、『岸田劉生全集』(岩波書店)
- ・『白樺』1919年4月号
- ・『電線絵画』図録(練馬区立美術館)

<旅のしおり>

- ・武者小路実篤記念館:印象派作品を国内へ紹介するなどした文芸・芸術雑誌『白樺』は、劉生にも大きな影響を与えた。特に実篤との出会いを「第二の誕生」とも称した。同誌の表紙画も多く手掛けている。調布市、京王線・仙川駅徒歩10分。
- ・新しき村:実篤が中心となり、晴耕雨読の理想郷を掲げ開村。一時は幼稚園を運営するほど増えた村民も、現在は3名のみとなっている。入間郡毛呂山町、東武線・武州長瀬駅徒歩20分。

クラブ名	2024年 7月1日 現在		当月末 会員数		増減	目標 純増	通算 入会
	内 女性	内 女性	内 女性	内 女性			
浦和	105	6	101	5	-4	6	5
浦和東	93	14	99	15	6	3	9
浦和南	23	2	23	2	0	1	1
浦和中	31	4	33	5	2	3	2
浦和ダイヤモンド	21	4	22	3	1	1	2
第1グループ計	273	30	278	30	5	14	19
浦和北	58	3	57	4	-1	4	5
さいたま中央	41	2	41	2	0	2	2
さいたまシティ	20	1	21	1	1	1	1
浦和北東	38	3	44	4	6	5	7
さいたま新都心	34	0	33	0	-1	2	2
第2グループ計	191	9	196	11	5	14	17
大宮	62	3	55	1	-7	5	8
大宮南	33	9	38	10	5	3	6
大宮中央	32	1	32	1	0	3	2
大宮シティ	42	4	45	4	3	3	4
さいたま櫻	33	2	36	4	3	3	3
さいたま大空	15	6	13	5	-2	2	0
第3グループ計	217	25	219	25	2	19	23
大宮西	114	15	119	17	5	3	13
岩槻	19	0	27	3	8	5	9
大宮東	39	2	38	3	-1	3	3
岩槻東	22	3	21	3	-1	3	0
大宮北東	7	1	8	1	1	3	1
第4グループ計	201	21	213	27	12	17	26
上尾	34	0	33	0	-1	4	1
鴻巣	21	4	21	4	0	1	0
桶川	20	0	20	0	0	2	0
上尾西	34	3	35	4	1	2	1
北本	5	1	5	1	0	2	0
上尾北	21	0	20	0	-1	1	0
鴻巣水曜	25	0	25	0	0	2	2
桶川イブニング	29	3	26	3	-3	0	0
鴻巣イブニング	18	2	21	2	3	0	4
第5グループ計	207	13	206	14	-1	14	8
春日部	28	2	28	2	0	3	3
杉戸	37	3	35	3	-2	3	0
春日部西	27	3	27	1	0	3	2
春日部南	22	0	29	0	7	0	8
春日部イブニング	38	2	41	2	3	4	3
第6グループ計	152	10	160	8	8	13	16

ローターアクトクラブ

クラブ名	7/1会員数	当月末	増減	クラブ名	7/1会員数	当月末	増減
大宮	3	2	-1	大宮南	11	9	-2
浦和北	11	15	4	蓮田	4	5	1
獨協大学	5	6	1	川口/鴻ヶ谷武南	4	11	7
大宮東	8	7	-1	戸田中央看護専門学校		123	123
文教大学	9	5	-4	川口モーニング		6	8
共栄大学	11	51	40	大宮西		10	10
川口	15	12	-3	ローターアクト計	81	262	183
				地区合計	2281	2490	209

クラブ名	2024年 7月1日 現在		当月末 会員数		増減	目標 純増	通算 入会
	内 女性	内 女性	内 女性	内 女性			
幸手	27	1	25	1	-2	4	1
蓮田	45	3	46	3	1	3	1
久喜	47	7	50	7	3	5	6
幸手中央	17	2	14	1	-3	2	0
第7グループ計	136	13	135	12	-1	14	8
越谷	90	3	91	6	1	2	11
越谷南	37	3	38	4	1	5	5
越谷北	43	2	49	2	6	3	6
越谷東	70	5	74	5	4	5	10
越谷中	11	1	13	1	2	3	3
第8グループ計	251	14	265	18	14	18	35
八潮	50	4	26	2	-24	2	0
八潮イブニング	10	0	10	0	0	0	0
八潮みらい	18	1	17	1	-1	2	0
草加松原	33	3	36	3	3	6	4
草加シティ	17	6	17	6	0	5	0
第9グループ計	128	14	106	12	-22	15	4
吉川	10	0	8	0	-2	3	0
三郷	32	4	30	4	-2	1	0
三郷中央	16	1	17	2	1	3	1
松伏	17	2	19	2	2	3	2
吉川中央	14	3	14	3	0	2	1
第10グループ計	89	10	88	11	-1	12	4
川口	91	16	93	18	2	6	10
鳩ヶ谷	13	0	15	0	2	1	3
川口東	24	3	24	3	0	2	2
川口/鳩ヶ谷武南	22	2	23	3	1	2	2
川口モーニング	24	1	29	2	5	5	6
川口南	15	3	16	5	1	3	2
川口シティ鳩ヶ谷	7	2	7	2	0	1	0
第11グループ計	196	27	207	33	11	20	25
戸田	51	7	50	7	-1	6	0
蕨	16	3	17	3	1	3	2
川口西	13	1	11	0	-2	1	0
戸田西	20	1	20	1	0	1	1
川口北	30	1	28	1	-2	0	0
川口中央	11	1	11	1	0	1	0
川口むさし野	18	5	17	4	-1	2	0
第12グループ計	159	19	154	17	-5	14	3
地区合計	2200	205	2227	218	27	184	188
参考:2024年5月地区合計	2241	197	2309	217	68	234	223

ロータリークラブ数	68RC	68RC
ローターアクトクラブ数	3RAC	13RAC
2025年5月末会員数	2227人	2227人
RC+RAC会員数	2489人	2489人